【市民協働サポートセンター】 令和3年度運営報告

令和4年3月

特定非営利活動法人 長野県NPOセンター

長野市市民協働サポートセンター 令和3年度を振り返って

ウィズコロナ時代の幕開けとなった令和3年度。予想通り第6波が到来、市内でも、感染警戒レベルが5となり、まんえん防止等重点措置がとられるなど、センター運営に苦慮した1年だった。

もんぜんぷら座のスクランブル広場は使用不可のまま新しい年を迎えたが、そんな状況 下にあっても、いつまでも事業を止めることはできないと活動を徐々に再開する人たちの 姿もあり、センターとしてもできるかぎりの支援をと心がけた。

まずは、センターを閉鎖しないこと。活動の拠点としての役割と、出会いを生む場としての役割はセンターの要。図書館や公民館など市民が自由に行き来できる公共施設の閉鎖が相次ぐ中で、そこは覚悟を持って取り組んだ。人数や飲食の制限があっても利用する人が多かったことは、その現れではないかと考える。

講座や交流会のオンライン化、ハイブリット開催、感染予防の徹底で、予定した事業はほぼ実施することができた。特に毎回 40 人を超える参加者がある「地域まんまる」は、開催地区や協力団体の熱意もあり、延期にはなったが、リアルで開催ができて、参加者どうしが直接つながる場面もあった。開催にあたり協力いただいた皆様には感謝したい。

一方、全国の市民活動の動きにアンテナを張り、オンラインの研修や交流会に参加したことで、視察受け入れやセンター紹介の機会を得て、ネットワークが広がった。また、積極的に取材や訪問をしたことから、今まで関係がもてていなかった行政部署や団体、企業等との接点もでき、交流会への参加につなげることができた。

令和3年度はセンターのあり方検討のため、地域活動支援課とのコミュニケーションも増えた。協働を推進するセンター自身が対話を大切に協働で運営されることの意義を改めて感じている。今後も公設民営の強みを活かした運営ができればと思う。

また、今後の方向性として、次世代を担う若い世代との接点を積極的に作り出し、世代を超えた学び合いと交流を促進し、さまざまな年代の力が活かされる地域づくりにつなげたい。そのため、市民一人ひとりの「参加」を核に、コーディネーション力を引き出し、対話から協働へつなげるファシリテーターとしての役割を果たしていきたい。

長野市市民協働サポートセンター センター長 阿部 今日子



目次

総 括 (令和3年度を振り返って)

令和3年度事業報告

(1)情報の収集・提供業務1
(2)市民公益活動団体、地縁組織、住民自治協議会、企業、NPO 等を対象とした民間相 互の継続的な活動支援、また、行政との協働促進業務6
(3)市民公益活動の促進を図るためのその他の事業など17
(4)施設管理業務21



令和3年度事業報告

(1) 情報の収集・提供業務

<事業内容>

- ① 市民公益活動団体に関する情報の収集及び提供
 - ア 機関誌の発行・配布(年4回以上)及びバックナンバーのホームページ公開
 - イ 市民公益活動団体及び関係機関が発行する機関紙の収集及び管理
 - ウ ホームページ、facebook などを活用した情報発信及びそれらの管理運用
 - エ 市民公益活動団体の情報ファイルの作成・整理
 - オ その他、人材の紹介、助成金等活動資金、法務、財務会計、税務その他市民 公益活動団体の運営のノウハウに関する情報の収集及び提供
- ② 情報掲示板、関係図書の管理(各団体のチラシ、ポスター等の提示物の受付等)
- ③ 市民公益活動団体、ボランティア等に関する情報提供、案内
- ④ 報道機関へのイベント情報提供
 - ア 長野市民新聞「市民とNPOのひろば」への取材記事、イベント情報提供
 - イ FMぜんこうじ「長野市広報ふれあいガイド」へのNPO団体出演のコーディネート
- ⑤ 市内各種団体の取材、ヒアリング等による実態把握

<事業目標>

- 長野市内のNPO情報を収集、整理、蓄積、発信
- 情報の収集・発信に力を入れることで団体間の情報共有の充実を図る
- ・ ホームページを活用した情報発信の充実
- ・ SNS(Facebook、Instagram 等)を活用した情報の受発信を充実させ集客を図る
- ・ センターとしての相談・コーディネート実績を重ね、センター周知につなげる

<事業実績>

- ① 取材訪問、窓口応対、マスコミなどを通し、あらゆる団体情報を収集、提供
 - ア センター機関誌「まんまる」年 4 回発行(4 月/7 月/10 月/1 月) 発行部数各号 1,700 部/配布件数 1,983 件 平均 496 件
 - ※ホームページでバックナンバーを公開
 - イ 関係機関が発行する機関紙の受付件数 228件 (2021/4~2022/3)
 - ウ ホームページ・facebook については随時更新
 - ※ホームページを活用しての情報発信件数 475件
 - /アクセス件数 51,979件(2021/4~2022/3)
 - ※facebook を利用しての情報発信件数 660 件
 - /アクセス件数 65,277件(2021/4~2022/3)
 - ※Instagram を利用しての情報発信件数 97件
 - /アクセス件数 2,436件(2021/4~2022/3)



- エ 市民公益活動団体の情報ファイルの作成・整理
- オ 助成金情報の提供

ホームページを活用しての情報発信件数 81件(2021/4~2022/3)

② 情報掲示板、関係図書の管理

ア チラシ、広報紙の受付件数 チラシ 511 件 (種類) 【前年比 187.8%】

イ 図書貸出件数 4件

③ 市民公益活動団体、ボランティア等に関する情報提供、案内 窓口情報提供件数 2,049件/電話・メール情報提供件数 3,370件/訪問情報提供件数 229件 【合計 5,648件(前年比 109.6%】

④ 報道機関へのイベント情報提供

ア 長野市民新聞「市民とNPOのひろば」「NPOリレーコラム」編集委員会 年12回

イ 市民新聞「市民とNPOのひろば」へのイベント取材記事、イベント情報提供 (毎月第1火曜日掲載)

【まん	まる交差点 取材記事】	【イベント情報提供数】		
4 月	ミドルの出会いの場	24		
5月	芋井で食農体験活動	24		
6 月	まちづくり活動報告	27		
7月	地域の居場所 カフェ	24		
8月	七二会の紙芝居作り	26		
9月	エシカル消費広める	27		
10 月	市民活動どう考える	28		
11 月	コミュニティ必要	25		
12 月	寄り添って支え合う	25		
1月	特集 地域まるごとキャンパス	25		
2月	被災した佐賀を支援	23		
3月	ビジネスで課題解決	25	年間計	303

ウ 市民新聞「NPOリレーコラム」の執筆者コーディネート、イベント各回 2 件情報提供 (毎 月第 3 土曜日掲載)

【執筆者】 (執筆依頼/原稿調整等)

- 4月 吉池陽子(長野犯罪被害者支援センター)
- 5月 吉田廣子(まめってえ鬼無里)
- 6月 須磨 航(被災地を写真でつなぐ実行委員会)
- 7月 中山哲徳 (信州環境カレッジ)
- 8月 村瀬和子(ながの子どもを虐待から守る会)
- 9月 岩間千佳(えんまる)



- 10月 白澤章子(川中島の保健室)
- 11 月 水上則男(戸隠森林植物園ボランティアの会)
- 12月 林 映寿(日本笑顔プロジュエクト)
- 1月 池田聡子(みんなの学校)
- 2月 土田 昇(長野市災害ボランティア委員会)
- 3月 松村 降(長野いのちの電話)
- エ FMぜんこうじ「長野市広報ふれ愛ガイド」へのNPO団体出演コーディネート 12件 【出演団体】(出演依頼/日程調整/内容の打合せ等)

4月/長野南部子ども劇場

10月/まな VIVA ちくま

5月/七二会いいとこ発見委員会

11 月/シナノ未来プロジェクト

6月/子どもたちへヨガを伝える会ながの 12月/ヒューマンネットながの

8月/シャインプロジェクト

1月/プロ家庭教師のネットワーク IWILL

7月/長野犯罪被害者支援センター

9月/被災地を写真でつなぐ実行委員会 3月/学び舎めぶき

2月/川中島の保健室

⑤ 市内各種団体の取材、ヒアリング等による実態把握

訪問件数 155 件(前年比 131.3%)

市内各種団体にはイベント取材等に合わせて訪問、住民自治協議会へのヒアリングも実施



市民協働サポートセンターホームページ 全面リニューアルし、見やすく!







チラシ閲覧・配架・活動掲示コーナー 「スクランブルひろば」





■長野市民新聞「市民とNPOのひろば」毎月第一火曜日 年 12 回掲載





春号:配布 480件 特集 NPO×広報 ~情報発信虎の巻~



特集 有害鳥獣は、減らせばいいの?





秋号:配布 492件

特集 明るい未来へ! 学生たちが熱い!!



冬号:配布 499件

特集 寄付から始まる新たな可能性を探そう

<評価と課題>

情報の収集・提供業務では、これまでと同様にITと紙ベースを活用しつつ、より効果的な情報提供について検討、インスタグラムの立ち上げなども試みた。また、ホームページリニューアルも予算化され、年度末になったがリリースができた。今後も内容の充実を図り、見やすく、わかりやすくしていくことはもちろん、市内団体の状況や新たな動きなどを発信していく。

I Tでは、ホームページや facebook 等の媒体を活用し、新鮮な情報の発信を継続。ホームページへのアクセス件数は前年比 78.5%の 51,979 件 (前年 66,219 件)、facebook ページへの年間アクセス件数は 65,277 件 (前年 90,802 件)、前年比 71.9%となった。ホームページ facebook、いずれもアクセス数が大きく減っている。特に facebook については、減少が著しく、発信ツールとしての限界を感じるが、多くの人や団体とつながるツールとしてはまだまだ市民活動の世界では必要不可欠。できるだけ効率よく効果的に活用することを検討していく。コロナ禍でイベントが減少した昨年度から、減少は続いている。今年度は昨年度から始めた Instagram も積極的に活用し、今までとは違う年代層やコミュニティにはたらきかけてみた。結果はまだ出ていないが、今後も検証をしていきたい。

I Tでの発信と並行して、講座や交流会の集客は、これまで築き上げてきたスタッフそれぞれのネットワークを活用、また、これまでセンターのイベントに参加した方にも、できるだけピンポイントに個別でのお誘いや、メールワイズの一斉メールなど「あなたに向けた発信です」という形での広報を心がけた結果、どの講座や交流会もコロナ禍でも一定の参加者があり、充実したものとなった。

紙ベースでは、機関紙「まんまる」(年4回)、長野市民新聞「市民とNPOのひろば」誌面(年12



回)を通してセンターの情報はもちろん、社会の課題やNPOの活動状況を広く発信。特に機関誌まんまるは毎号その時々の社会の動きをとらえた特集を組んでおり、特集に関連する機関への取材をしたこともあり、配布箇所も増加した。今後も充実した記事を企画していきたい。また、来年度は限られた部数を効率よく活用いただけるよう、設置場所配布部数の調整をかけたい。

新型コロナ感染症の拡大により、全県がレベル5になり、年明けにはまんえん防止等重点措置のためもんぜんぷら座のスクランブルひろばが使えなくなり、センターのまんまるテーブルも一時使用停止せざるを得ない状況となったが、閉めることはせず、スタッフの人数を減らして対応、リモートワーク中もメールやSNSなどのツールをフルに活用し、利用者とのコミュニケーションを図った。

(2) 市民公益活動団体、地縁組織、住民自治協議会、企業、NPO等を対象とした民間 相互の継続的な活動支援、また、行政との協働促進業務

<事業内容>

- ① 活動団体のネットワークの強化・拡大
 - ア 課題解決に向けた団体間の交流事業の企画・運営
 - イ 活動に係る新たな担い手の発掘
- ② 相談及び調整
 - ア 活動団体等からの各種相談受付、マネジメントに関する支援
 - イ 団体・個人のニーズに合わせたコーディネート
- ③ 団体・個人の育成

各種講座の開催

- ア 活動団体等の成長・自立につながる情報等を提供する講座
- イ 地域内外から活動資金の調達に関する講座
- ウ 活動団体などのコンプライアンスなどに関する講座
- エ 情報発信(マスコミ向け、ホームページなど)に関する講座

<事業目標>

- ・ ながのまちづくり活動支援事業補助金交付団体へ、積極的な支援を行う
- NPOカフェまんまる、地域まんまる、まちむら交流会など、それぞれのイベントの特徴を生かしながら、参加対象者の拡大を図り、人と人とのつながりを広げていく
- ・ 参加者のニーズに沿った講座を企画していく
- ・ 行政、地域、企業との人的ネットワークの形成

く事業実績>

- ① 活動団体のネットワークの強化・拡大
 - ア 課題解決に向けた団体間の交流事業の企画・運営



i ≪NPOカフェまんまる・地域まんまる≫

		タイトル			
	期日	会 場	参加人数		
		企画団体			
	このままでいいの				
1	4月 17 日(土)	もんぜんぷら座 303 会議室	6		
	定年後は何をする				
2	5月 15 日(土)	もんぜんぷら座 304 会議室	24		
	ゆる~いおっさん				
	SDGsまんまる「自	然との向き合い方を考える」			
3	7月3日(土)	もんぜんぷら座 304 会議室	17		
	信州野生生物保全	全センター			
	地域まんまる「鬼	地域まんまる「鬼無里で暮らし続けるために」			
4	7月 25 日(日)	鬼無里地区活性化センター	53		
	鬼無里地区住民	自治協議会			
	親子焼き芋会				
5	10月30日(土)	安茂里園沖遊園地	100		
	園沖支え愛ネット				
	SDGsまんまる「外国籍市民の実態と共生について考える」				
6	11月13日(土)	もんぜんぷら座 304 会議室	13		
	長野県多文化共生相談センター				
	野良猫による環境	養被害対策	20		
7	12月5日(日)	もんぜんぷら座 304 会議室	─ 29 ─ 内オンライン6		
	長野市保健所		M377176		
	募金箱づくりワークショップ				
8	12月12日(日)	もんぜんぷら座 304 会議室	23		
	ながの協働ねっと				
	地域まんまる「地域	域の草刈りどうしてる?」			
9	3月14日(月)	中条交流センター	47		
	長沼ワーク・ライン	- 7組合、芋井地区地域活性化推進員			
		合計	312		

- ii 協働事業のサポート(ながの協働ねっと事業ほか)
 - ■ながの協働ねっと理事会 (実施回数 年9回/述べ人数 60人)

【主な関係団体】

• NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会



- NPO法人食育体験教室・コラボ
- NPO法人長野県NPOセンター
- NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト
- NPO法人ヒューマンネットながの
- NPO法人ながの電気クラブ
- NPO法人長野スポーツコミュニティクラブ東北
- ウェルカム三歳児プロジェクト
- 第三地区住民自治協議会
- 被災地を写真でつなぐ実行委員会
- ■夏休み自由研究こうりゃくダンジョン×NPO(センターとながの協働ねっとの協働企画) 夏休みに子どもたちがNPOと出会う機会を提供 4プログラムを提供 10人参加

≪コミュニティブリッジ≫

	期日	参加人数
	会場	参加 人致
1	10月14日(木)	E
'	シソーラス	5
	슴計	5

<参画団体>

公益財団法人長野県長寿社会開発センター、長野市ボランティアセンター、シソーラス株式会社、 NPO法人長野県NPOセンター

イ 活動に係る新たな担い手の発掘

i ≪まんまるサロン・発送サロン・おじさんまんまるほか≫

	テーマ		参加人数	
	期日	会場	参加八 数	
	機関誌まんまる(4	機関誌まんまる(4/1号)発送作業		
'	3月29日(月)	市民協働サポートセンター	3	
2	ボランティアサロン		2	
	4月 27 日(火)	市民恊働サポートセンター	2	
3	ボランティアサロン		_	
3	5月 25 日(火)	市民協働サポートセンター	'	
4	ボランティアサロン		_	
7	6月14日(月)	市民協働サポートセンター	'	
5	ボランティアサロン		2	
	6月 22 日(火)	市民協働サポートセンター	2	



6	ボランティアサロン	1	
	6月25日(火) 市民協働サポートセンター	1	
7	機関誌まんまる(7/1号)発送作業	3	
	6月28日(月) 市民協働サポートセンター	3	
8	おじさんまんまる	_ 23	
	7月 17 日(土) 市民協働サポートセンター	20	
9	ボランティアサロン	_ 2	
	7月27日(火) 市民協働サポートセンター	_	
10	ボランティアサロン	_ 2	
	8月 10日(火) 市民協働サポートセンター	_	
11	おじさんまんまるオンライン	5	
	8月28日(土) 市民協働サポートセンター	J	
12	ボランティアサロン	6	
	9月21日(火) 市民協働サポートセンター	J	
13	機関誌まんまる(10/1号)発送作業	8	
	9月28日(火) 市民協働サポートセンター		
14	おじさんまんまる	11	
	10月23日(土) 市民協働サポートセンター		
15	ボランティアサロン	12	
	10月26日(火) 市民協働サポートセンター		
16	おじさんまんまる	31	
	11 月 14 日(日) 市民協働サポートセンター	<u> </u>	
17	ボランティアサロン	6	
.,	11月23日(火) 市民協働サポートセンター	<u> </u>	
18	おじさんまんまる	26	
10	12月19日(日) 市民協働サポートセンター	20	
19	ボランティアサロン	2	
19	12月21日(火) 市民協働サポートセンター	2	
20	機関誌まんまる(1/1号)発送作業	3	
20	12月25日(土) 市民協働サポートセンター	3	
21	機関誌まんまる(1/1号)発送作業	4	
21	12月28日(火) 市民協働サポートセンター	4	
22	おじさんまんまるオンライン	- 8	
22	1月15日(土) 市民協働サポートセンター	8	
00	ボランティアサロン	4	
23	1月 25 日(火) 市民協働サポートセンター	1	



24 おじさんまんまるオンライン 6 2月 20 日(日) 市民協働サポートセンター 2 25 ボランティアサロン 2 26 ボランティアサロン 3 月 22 日 市民協働サポートセンター 27 おじさんまんまるオンライン 21	
2月 20 日(日) 市民協働サポートセンター 25 ボランティアサロン 26 ボランティアサロン 3月 22 日 市民協働サポートセンター おじさんまんまるオンライン 21	0.4
25 2月22日(火) 市民協働サポートセンター 26 ボランティアサロン 3月22日 市民協働サポートセンター おじさんまんまるオンライン 21	24
2月 22 日(火) 市民協働サポートセンター 26 ボランティアサロン 3 月 22 日 市民協働サポートセンター おじさんまんまるオンライン 21	OF
26 3月22日 市民協働サポートセンター おじさんまんまるオンライン 21	25
3 月 22 日 市民協働サポートセンター おじさんまんまるオンライン 21	26
21	20
	27
3月27日(日) 市民協働サポートセンター	21
機関誌まんまる(4/1号)発送作業 5	20
3月30日(水) 市民協働サポートセンター	28
승計 200	_

ii ≪まちむら交流会≫

まちむら交流会 in 七二会 「七二会竹取物語」2回シリーズ

•6月13日(日)雨天中止

	期日	会場	参加人数
	まちむら交流会 in 七		
1	11月20日(土)	20	
	七二会いいとこ発見る		

iii 地域まるごとキャンパス(ながの協働ねっと)

地域まるごとキャンパス

(実行委員会 年 6 回/49 人参加 フィールド提案数 27 団体 28 件 説明会・イベントを含めた述べ参加人数 1,423 人 プログラムに参加した学生 271 人)

【主な関係団体】

- NPO法人長野県NPOセンター
- NPO法人ヒューマンネットながの
- NPO法人みどりの市民
- 社会福祉法人長野県社会福祉協議会
- 北信教育事務所
- 一般社団法人子育てみらいネット
- ながの電気クラブ
- ながの環境パートナーシップ会議
- 第三地区住民自治協議会



4月5日(月) 実行委員会 7 4月15日(木) 様/井高校打ち合わせ 1 4月19日(月) 長野日大高校学生説明会 01,000 4月24日(土) 学生説明会(会場・オンライン併用) R39,014 4月25日(日) 新学期応援フェス 50 4月26日(月) 市立長野高校打ち合わせ 3 4月28日(水) 第一学院書を説明会 60 4月30日金) 第生説明会会場・オンライン併用) R40,016 5月10日(月) 長野女子高校学生説明会 20 5月14日金 様/井ライオンズクラブ打ち合わせ 3 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月27日(木) ブログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) ブログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月2日日(木) 東子委書業案内 1 6月2日日(木) 東子事業案内 1 7月1日(木) 様/井高校打ち合わせ 2 7月1日(木) 株/井高校打ち合わせ 1 7月1日(木) 東ノ井高校打ち合わせ 1 7月1日(水) 文化学園長野藤大市門門学校打ち合わせ	期日	内容	参加人数
4月19日(月) 長野日大高校学生説明会 O1,000 4月24日(土) 学生説明会(会場・オンライン併用) R39,014 4月25日(日) 新学期応援フェス 50 4月26日(月) 市立長野高校打ち合わせ 3 4月28日(水) 第一学院高校打ち合わせ 1 4月30日(金) 第一学院学生説明会 60 4月30日(金) 学生説明会(会場・オンライン併用) R40,016 5月10日(月) 長野女子高校学生説明会 20 5月14日(金) 様/井ライオンズクラブ打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月27日(木) プログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) ブログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5,01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月24日(木) 蓮香寺事業来内 1 7月1日(木) 様/井高校打ち合わせ 2 7月9日(カ) 文化学園長野高校打ち合わせ 6 7月9日(カ) 交化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 交化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 東京大寺事業を内 1 7月1日(水) 交化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 交化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 交化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 交生時1説明会 R1 7月1日(木) 様/井高校打ち合わせ 1 7月9日(ホ) 長野使英高校打ち合わせ 1 7月9日(ホ) 東立大学学生向け説明会 R1 7月1日(水) 長野使英高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月19日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月19日(木) 実行委員会 O4	4月5日(月)	実行委員会	7
4月24日(土) 学生説明会(会場・オンライン併用) R39、014 4月25日(日) 新学期応援フェス 50 4月26日(月) 市立長野高校打ち合わせ 3 4月28日(水) 第一学院高校打ち合わせ 1 4月30日(金) 第一学院学生説明会 60 4月30日(金) 学生説明会(会場・オンライン併用) R40、016 5月10日(月) 長野女子高校学生説明会 20 5月14日(金) 篠/井ライオンズクラブ打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月27日(木) ブログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) ブログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 連番寺事業案内 1 6月25日(金) ガルラム提案団体向け説明会 0 6月15日(大) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 連番寺事業案内 1 7月1日(木) 境ノ井高校打ち合わせ 6 7月3日(木) 様ノ井高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 大豆島地区打ち合わせ 1 7月9日(水) 大豆島地区打ち合わせ 1 7月1日(水) 大東野美新校打ち合わせ 1 7月1日(水) 大東野美新校打ち合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野本教打ち合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野本教打ち合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野本教打ち合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野大島合わせ 1 7月1日(水) 長野大野東町学校打ち合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野大島合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野大島合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野大島合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野大島合わせ 1 7月1日(水) 大東野大野大島本福祉協議会取材 2 8月1日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 東行委員会 04	4月 15 日(木)	篠ノ井高校打ち合わせ	1
4月25日(日) 新学期応援フェス 50 4月26日(月) 市立長野高校打ち合わせ 3 4月28日(水) 第一学院高校打ち合わせ 1 4月30日(金) 第一学院学生説明会 60 4月30日(金) 学生説明会(会場・オンライン併用) R40、016 5月10日(月) 長野女子高校学生説明会 20 5月14日(金) 様/井ライナンズクラブ打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) ブログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) ブログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 様/井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月1日(木) 学生向け説明会 7月1日(木) 学生向け説明会 7月1日(木) 学生向け説明会 7月1日(木) 禁ノ井高校学生向け説明会 7月1日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04 8月19日(木) 実行委員会 04 8月19日(木) 実行委員会 04	4月 19 日(月)	長野日大高校学生説明会	O1,000
4月26日(月) 市立長野高校打ち合わせ 1 4月28日(水) 第一学院高校打ち合わせ 1 4月30日(金) 第一学院学生説明会 60 4月30日(金) 学生説明会(会場・オンライン併用) R40、016 5月10日(月) 長野女子高校学生説明会 20 5月14日(金) 篠ノ井ライナンズクラブ打ち合わせ 3 5月14日(金) 長野俊英高校チラシ案内・打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) ブログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) ブログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 園成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月1日(木) 学生向け説明会 R1 7月1日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月19日(木) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月19日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 O4	4月24日(土)	学生説明会(会場・オンライン併用)	R39、O14
4月28日(水) 第一学院高校打ち合わせ 1 4月30日(金) 第一学院学生説明会 60 4月30日(金) 学生説明会(会場・オンライン併用) R40、016 5月10日(月) 長野女子高校学生説明会 20 5月14日(金) 様と井ライナンズクラブ打ち合わせ 3 5月14日(金) 長野俊英高校チラシ案内・打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) プログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 1 7月7日(水) 大野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 6 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 <t< td=""><td>4月25日(日)</td><td>新学期応援フェス</td><td>50</td></t<>	4月25日(日)	新学期応援フェス	50
4月30日(金) 第一学院学生説明会 60 4月30日(金) 学生説明会(会場・オンライン併用) R40、016 5月10日(月) 長野女子高校学生説明会 20 5月14日(金) 様/井ライオンズクラブ打ち合わせ 3 5月14日(金) 長野後英高校子ラシ案内・打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月27日(木) プログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月2日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月2日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月1日(木) 文化受働長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 文化受働長野高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美の大学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(力) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4	4月26日(月)	市立長野高校打ち合わせ	3
4月30日(金) 学生説明会(会場・オンライン併用) R40、016 5月10日(月) 長野女高校学生説明会 20 5月14日(金) 篠ノ井ライオンズクラブ打ち合わせ 3 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) プログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月5日(月) 園成寺事業案内 1 7月7日(木) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 支化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美教英市校打ち合わせ 1 7月19日(木) 大空島長野体専門学校打ち合わせ 1 7月1日(木) 大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・大戸・	4月28日(水)	第一学院高校打ち合わせ	1
5月10日(月) 長野女子高校学生説明会 20 5月14日(金) 篠ノ井ライオンズクラブ打ち合わせ 3 5月14日(金) 長野俊英高校チラシ案内・打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) ブログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) ブログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月5日(月) 國成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野俊英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 東丁美中向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(力) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) <td>4月30日(金)</td> <td>第一学院学生説明会</td> <td>60</td>	4月30日(金)	第一学院学生説明会	60
5月14日(金) 篠/井ライオンズクラブ打ち合わせ 3 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) ブログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、O1 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 6 7月5日(月) 園成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野俊英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(大) 篠ノ井高校学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(木) 大豆島地区住民自治協議会取材 6 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月19日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1 8月19日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	4月30日(金)	学生説明会(会場・オンライン併用)	R40、O16
5月14日(金) 長野俊英高校チラシ案内・打ち合わせ 1 5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) プログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月5日(月) 園成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 大学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 長野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 長野養衛専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 央行委員会 04 8月19日(木) 一般社団法会議議会取材 04 8月29日(木)	5月10日(月)	長野女子高校学生説明会	20
5月18日(火) 北信教育事務所打ち合わせ 1 5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) プログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、O1 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 園成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 長野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(未) 長野美後専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(大) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 央社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	5月14日(金)	篠ノ井ライオンズクラブ打ち合わせ	3
5月21日(金) 十念寺事業案内 1 5月27日(木) プログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、O1 6月24日(木) 連番寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(力) 篠ノ井高校学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	5月14日(金)	長野俊英高校チラシ案内・打ち合わせ	1
5月27日(木) プログラム提案団体向け説明会 2 6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、O1 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 園成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(水) 長野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(カ) 篠ノ井高校学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	5月18日(火)	北信教育事務所打ち合わせ	1
6月3日(木) 長野市開発公社打ち合わせ 5 6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 園成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 大化学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月19日(木) 実行委員会 04 8月19日(木) 実行委員会 04	5月21日(金)	十念寺事業案内	1
6月4日(金) プログラム提案団体向け説明会 0 6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 圓成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 大田学園長野高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 S0 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04	5月27日(木)	プログラム提案団体向け説明会	2
6月15日(火) 実行委員会 R5、01 6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 園成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野俊英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R12 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04 8月19日(木) 央社団法人信州子育てみらいネット取材 1	6月3日(木)	長野市開発公社打ち合わせ	5
6月24日(木) 蓮香寺事業案内 1 1 6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 圓成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野俊英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R12 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	6月4日(金)	プログラム提案団体向け説明会	0
6月25日(金) 西光寺事業案内 1 7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 圓成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	6月15日(火)	実行委員会	R5、01
7月1日(木) 篠ノ井高校打ち合わせ 2 7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 圓成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野俊英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月19日(水) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	6月24日(木)	蓮香寺事業案内	1
7月4日(日) 七二会地区打ち合わせ 6 7月5日(月) 圓成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R12 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	6月25日(金)	西光寺事業案内	1
7月5日(月) 圓成寺事業案内 1 7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野後英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R12 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	7月1日(木)	篠ノ井高校打ち合わせ	2
7月7日(水) 文化学園長野高校打ち合わせ 1 7月7日(水) 長野俊英高校打ち合わせ 1 7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 030 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R12 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	7月4日(日)	七二会地区打ち合わせ	6
7月7日(水)長野俊英高校打ち合わせ17月9日(金)長野美術専門学校打ち合わせ17月9日(金)県立大学学生向け説明会0307月10日(土)学生向け説明会R17月14日(水)学生向け説明会R127月19日(月)篠ノ井高校学生向け説明会508月4日(水)大豆島地区住民自治協議会取材28月10日(火)長野県社会福祉協議会取材68月12日(木)長野県社会福祉協議会取材48月19日(木)実行委員会048月29日(木)一般社団法人信州子育てみらいネット取材1	7月5日(月)	圓成寺事業案内	1
7月9日(金) 長野美術専門学校打ち合わせ 1 7月9日(金) 県立大学学生向け説明会 O30 7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R12 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	7月7日(水)	文化学園長野高校打ち合わせ	1
7月9日(金)県立大学学生向け説明会O307月10日(土)学生向け説明会R17月14日(水)学生向け説明会R127月19日(月)篠ノ井高校学生向け説明会508月4日(水)大豆島地区住民自治協議会取材28月10日(火)長野県社会福祉協議会取材68月12日(木)長野県社会福祉協議会取材48月19日(木)実行委員会O48月29日(木)一般社団法人信州子育てみらいネット取材1	7月7日(水)	長野俊英高校打ち合わせ	1
7月10日(土) 学生向け説明会 R1 7月14日(水) 学生向け説明会 R12 7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	7月9日(金)	長野美術専門学校打ち合わせ	1
7月14日(水)学生向け説明会R127月19日(月)篠ノ井高校学生向け説明会508月4日(水)大豆島地区住民自治協議会取材28月10日(火)長野県社会福祉協議会取材68月12日(木)長野県社会福祉協議会取材48月19日(木)実行委員会048月29日(木)一般社団法人信州子育てみらいネット取材1	7月9日(金)	県立大学学生向け説明会	O30
7月19日(月) 篠ノ井高校学生向け説明会 50 8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 04 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	7月10日(土)	学生向け説明会	R1
8月4日(水) 大豆島地区住民自治協議会取材 2 8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	7月14日(水)	学生向け説明会	R12
8月10日(火) 長野県社会福祉協議会取材 6 8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	7月19日(月)	篠ノ井高校学生向け説明会	50
8月12日(木) 長野県社会福祉協議会取材 4 8月19日(木) 実行委員会 O4 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	8月4日(水)	大豆島地区住民自治協議会取材	2
8月19日(木) 実行委員会 O4 8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	8月10日(火)	長野県社会福祉協議会取材	6
8月29日(木) 一般社団法人信州子育てみらいネット取材 1	8月12日(木)	長野県社会福祉協議会取材	4
	8月19日(木)	実行委員会	O4
10 月 9 日(土) 学生向け説明会 R9、O2	8月29日(木)	一般社団法人信州子育てみらいネット取材	1
	10月9日(土)	学生向け説明会	R9、O2



	延べ	R389、O1198
3月18日(金)	実行委員会	R8、04
3月12日(土)	ユースリーチ文化祭	O105
2月22日(火)	実行委員会	R4、O6
2月6日(日)	参加学生交流会	9
1月22日(土)	プログラム提案団体交流会	R3、O13
1月22日(土)	参加学生交流会打ち合わせ	2
1月12日(水)	報告書打ち合わせ	1
12月27日(月)	大豆島地区住民自治協議会打ち合わせ	1
12月10日(金)	プログラム提案団体交流会打ち合わせ	2
10月23日(土)	参加学生交流会打ち合わせ	4
10月18日(月)	実行委員会	R9、01
10月13日(水)	学生向け説明会	R8、02

(R 会場参加者、0 オンライン参加者)

NPO カフェまんまる「親子焼き芋大会」

SDGs まんまる「外国籍市民の実態と共生について考える」



地域まんまる in 鬼無里「鬼無里で暮らし続けるために」



地域まんまる「地域の草刈りどうしてる?」







ボランティアサロン





地域まるごとキャンパス 学生説明会



地域まるごとキャンパス



② 相談及び調整

- ア 活動団体等からの各種相談受付、マネジメントに関する支援
- イ 団体・個人のニーズに合わせたコーディネート

相談件数 250件(窓口 104件/電話等 112件/訪問 34件)/(前年比 72.2%)

③ 団体・個人の育成

各種講座の開催

ア 活動団体等の成長・自立につながる情報等を提供する講座

≪NPO初歩講座≫

	日時	参加人数
1	4月24日(土)13:30~16:00	7
2	6月23日(水)18:30~21:00	4
3	9月29日(水)18:30~20:30	1
4	12 月8日(水)13:30~16:00	6
5	2月19日(土)13:30~16:00	5
	合計	23



≪NPOステップアップ講座≫

	タイトル/内容			
	日時	会場	参加人数	
	講師			
	コミュニティマネジメント「猫でもわかるチームビルディング」			
1	9月23日(木)	もんぜんぷら座 304 会議室	25 カオンライン 12	
	呉 哲煥さん(NPO法人CRファクトリー代表理事)			
	ファシリテーション講座「ワクワクする話し合いの場をつくろう!」		21	
2	11月28日(日)10:30~16:30	もんぜんぷら座 304 会議室	∠ I 内オンライン 6	
	鈴木まり子さん(NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー)			
	스타			
	合計			

長野県NPOセンターとの共催講座

	タイトル/内容		
	日時	会場	参加人数
	講師		
	SDGs 集中講座「国際理解/ジェンダーレス」		
1	8月7日(土)13:30~18:00	もんぜんぷら座会議室	30
	フィデアさん、ナラスさん/白澤章子さん(川中島の保健室		- 内オンライン 18
	SDGs 集中講座「ゼロカーボン/教育」		0.5
2	8月11日(水)13:30~18:00	もんぜんぷら座会議室	25
	浜田崇さん(長野県環境保全研究所)/池田聡子さん(みんなの学校)		内オンライン 21
	A=1		55
		合計	内オンライン 39

イ 地域内外から活動資金の調達に関する講座

	タイトル/内容			
	日時	会場	参加人数	
	講師			
	レッツトライ!助成金			
1	9月 5日(日)13:30~16:00	もんぜんぷら座 304 会議室	16	
	長野県NPOセンター 粟津知佳子さん		- 内オンライン 7	
	会計のいろはシリーズ/会計・税務お悩み相談会		2	
2	3月19日(土)13:30~16:00	もんぜんぷら座 303 会議室	(2 団体)	
	税理士法人成迫会計事務所 北原 正明さん		(4 四本)	
合計			18	



ウ 活動団体などのコンプライアンスなどに関する講座

	タイトル/内容		
	日時	会場	参加人数
	講師		
	SNS、うまくつかえてますか?		
1	5月29日(土)10:30~12:30	もんぜんぷら座 304 会議室	13
	千野敬子さん、唐木快枝さん(ソフトバンク株式会社)		
合計			13

エ 情報発信(マスコミ向け、ホームページなど)に関する講座

	タイトル/内容		
	日時	会場	参加人数
	講師		
	伝えるための広報講座		
1	6月 26 日(土)10:30~12:30	もんぜんぷら座 304 会議室	14
	岡田義彦さん(ソーシャルデザインセンター)		
合計			14



SDGs 集中講座「国際理解」



コミュニティマネジメント「猫でもわかるチームビルディング」



ファシリテーション講座「ワクワクする話し合いの場をつくろう!」



SNS、うまくつかえてますか?



<評価と課題>

ながのまちづくり活動支援事業に関わる支援業務としては、応募事前相談から団体と関わることで関係性を構築し、いくつかの団体は、取材活動や広報でのサポートをした。採択されなかった団体にも他の助成金の案内なども行ったり、関係ができたことで、財団からの支援の申し出をつないだりできた。

交流事業「NPOカフエまんまる」は、新たにSDGs推進を意識したテーマを入れることで、これまで参加がなかった団体からの参加や学生の参加があり、普段の活動カテゴリーや世代を超えた人たちが一つのテーマで議論し、つながる姿があった。特に学生はその後すぐに活動の現場へ行ったと聞いている。また、同じ分野で活動していても、一堂に会することがなかった複数の団体から、今後は自分たちでも交流会を企画したいとの声もあり、ネットワークづくりのきっかけを提供できた。まちむら交流会は、七二会地区で活動する「七二会いいとこ発見委員会」との協働での開催。特に親子を意識したプログラム構成にしたところ、初めて七二会を訪れた若い親世代から好評を得た。今後も独自の交流が進んでいくことを期待したい。

相談件数は、前年比 72.2%の 250 件と減少した。県内の感染状況悪化を受け、活動が停滞したり休止したりする団体、新たなことに挑戦する団体が減少していることが要因かと思われる。チラシや情報の持ち込まれる数もそれを示している。しかし、社会が好転しているわけではなく、さまざまな課題が露出している昨今、NPOの力が必要となっていることは間違いない。次年度に向けて活動再開を提案しながら、これまで通り丁寧な対応を心がけていきたい。

講座について、NPO初歩講座を回数を減らし、参加者が情報交換できるような形を模索した。 年明けの2回は積極的に交流する姿もあり、回数よりも一人一人の背景などを丁寧に聞き出すこと が大切と感じた。

ステップアップ講座は交流の要素を取り入れるよう講師に依頼し、ただ座学で教わるというよりは、参加者自身が参加意識をもって受講できるよう企画。オンラインやハイブリッドでの開催は、スタッフのスキルも上がり、それがノーマルになりつつある。夏には長野県NPOセンターのユースリーチメンバーと協働でSDGs集中講座を開催。企画の段階から講師のコーディネートまで若者世代にスタッフが伴走する形で開催。フルオンラインではあったが多様な人たちの参加があった。今後も外部団体との協働での開催をすることで、高価な講師の招へいや参加者の多様化による交流の活性化を狙っていきたい。

「まんまるサロン」は、定番となった3種のサロンを定期的に開催。若者世代からシニアまで、 同じテーブルで交流しながら作業ができる場として定着してきている。また、定年前後の男性のサロンは他団体との連携も始まり、自分たちで地域の課題にアプローチする活動を作り出している。 今年度をもってまんまるのサロンを卒業、自立の道を探る。

(3) 市民公益活動の促進を図るためのその他の事業など

<事業内容>

- ① 市民公益活動団体の活動資金調達のための物品販売支援
- ② その他

ア スタッフ研修



- イ スタッフ全体ミーティング
- ウ その他必要な事業

<事業目標>

- ① 市民団体から活動資金調達のための商品展示の要請があった場合、展示スペースを提供し、陳列する。
- ② スタッフのスキルアップ及びスタッフ間の情報を共有。

<事業実績>

- ① 市民公益活動団体の活動資金調達のための物品販売支援 展示スペースの提供/利用団体 18 団体
- ② その他

ア スタッフ研修

期日	内容
4月 1日(木)	講座オンライン用オーディオ実験
5月25日(火)	NPO/NGOのための組織基盤ワークショップ
6月 1日(火)	大阪ボランティア協会オンライン
6月 9日(水)	組織基盤強化セミナーオンライン
6月24日(木)	CRファクトリーオンライン講座
6月26日(土)	ソーシャルライターズミーティング(オンライン)
7月 9日(金)	SalesForce操作勉強会(オンライン)
7月13日(火)	地域循環共生圏スタートアップ講座(オンライン)
7月14日(水)	非営利組織評価セミナー
7月 15 日(木)	WordPress勉強会(オンライン)
7月25日(日)	地域循環共生圏第1回講座(オンライン)
8月10日(火)	WordPress勉強会(オンライン)
8月20日(金)	知らせる力 PJ 書き手講座
8月21日(土)	ワーカーズ法が切り開く地域の支え方研修
8月27日(金)	中間支援組織交流会(オンライン)
9月2、3日(火)	伝えるコツ講座(オンライン)
9月3日(水)	地域循環共生圏第2回講座(オンライン)
9月10日(金)	知らせる力 PJ 書き手講座
9月22日(水)	地域循環共生圏第3回講座(オンライン)
9月27日(月)	第4回地域づくりボランティア講座 山崎亮
9月27日(月)	WAM 助成シンポジウム地域 NPO と行政との協働の現在地(オンライン)
9月29日(水)	寄付月間アンバサダー交流会(オンライン)
10月19日(火)	ながのまちづくり支援事業補助金説明会



10月22日(金)	地域循環共生圏第4回講座(オンライン)
10月27日(水)	キフリオバトル(オンライン)
10月28日(木)	ゼロカーボンナビゲーター養成講座(オンライン)
10月29日(金)	NPO 法人に求められるデジタル手続きを考える(オンライン)
11月10日(水)	長野県災害時支援ネットワーク研修会
11月23日(火)	日本NPOセンター未来へのメッセージ&シンポジウム(オンライン)
11月25日(木)	中間支援組織ネットワーク会議(オンライン)
11月25日(木)	地域循環共生圏第5回講座(オンライン)
11月26、27日(金)	市民セクター全国会議(オンライン)
12月 3日(金)	ボランティアコーディネーション力検定 3 級試験
12月 3日(金)	協働環境調査報告会(オンライン)
12月10日(金)	地域循環共生圏第6回講座(オンライン)
12月18日(土)	ゼロカーボンナビゲーター養成講座(オンライン)
1月18日(火)	伊那市社協講座地域交通
1月28日(金)	地域循環共生圏第7回講座(オンライン)
2月 5日(火)	まちチャレセミナー(オンライン)
2月10日(木)	中間支援組織交流会(オンライン)
2月14日(月)	傾聴講座(オンライン)
2月19日(土)	ナガクルソーシャルラーターズミーティング(オンライン)
2月23、26、27日(水)	ボランティアコーディネーター研究集会(オンライン)
2月25日(金)	地域循環共生圏テイクオフセミナー(オンライン)

イ スタッフ全体ミーティング

- ◆ 毎月 2~3 回開催
- ◆ FBメッセンジャー、チャットワーク、Line を利用し随時連絡事項をスタッフ全員で 共有

ウ その他必要な事業

- ◆ 市民活動支援課との定例会議(毎月1回)
- ◆ その他関係団体プロジェクトへの参加
 - もんぜんぷら座運営委員会
 - もんぜんぷら座消防訓練
 - 長野市行政改革推進審議会
 - 生活支援体制整備事業第一層協議体会議
 - 小田切生活支援体制整備協議体小田切和輪話の会
 - ・ 令和3年度「ながのまちづくり活動支援事業」報告会・予備審査会・審査会
 - ボランティアセンター利用者会議
 - 長野清泉女子短期大学授業
 - ・ つよあたアライアンスミーティング



- 管内地域福祉ワーカー連絡会議
- 支所長会議
- ながの未来カフェ
- 住民自治協議会理事会
- J T × 関連企業による情報交換会
- 長野地域シニア活動推進ネットワーク会議
- 篠ノ井子ども食堂ミーティング
- · CRファクトリービジョンフォーラム 2021
- 信州環境カレッジ交流会
- 大岡全住民アンケートワークショップ
- 県立大宮下ゼミ中間発表会
- 長野県人生二毛作県民会議
- 長野スマートシティコミッション
- 全国移動ネットフォーラム
- ・ 佐久平地域まるごとキャンパス報告会
- ・ 県立図書館との協働ミーティング
- ◆ 他団体への会議スペース提供 貸出件数 57 件/利用人数 274 人 159.3%

◆ 報道機関からの取材

期日	報道機関	内容
5月4日	市民新聞	ながの未来カフェ
6月2日	信濃毎日新聞	まちむら交流会
6月 12 日	市民新聞	NPO カフェまんまる「定年後は何をする?」
6月26日	長野市民新聞	SDGs まんまる「自然との向き合い方を考える」
7月7日	信濃毎日新聞	SDGs まんまる「自然との向き合い方を考える」
7月 27 日	信濃毎日新聞	地域まんまる「鬼無里でくらし続けるために」
9月30日	信濃毎日新聞	NPO ステップアップ講座「コミュニティマネジメント
		講座」
10月23日	週刊長野	ゆる~いおっさんの会活動紹介
12月5日	中日新聞	NPO カフェまんまる「野良猫による環境被害対策」
12月12日	信濃毎日新聞	NPO カフェまんまる「募金箱づくりワークショップ」
1月22日	信濃毎日新聞	地域まるごとキャンパス団体交流会
1月24日	信濃毎日新聞	地域まるごとキャンパスの今後について
3月 14 日	信濃毎日新聞・長野市民新聞・	地域まんまる「地域の草刈りどうしてる?」
	NHK	

◆ 関係団体からの視察受け入れ

12月17日(金) とちぎボランティアNPOセンター 3人



<評価と課題>

NPOを中心としたネットワーク組織「ながの協働ねっと」の事務局として、多様な団体が協働で実施する事業に携わった。特に高校生以上の学生と市民活動とをつなぐプロジェクト『地域まるごとキャンパス』は市内でも定着してきた。ながの協働ねっと会員だけでなく、企業や住民自治協議会からプログラムを募集 27 団体・28 事業を採択。271 名(前年比 268.3%)の学生が実際に各フィールド活動に参加した。特に高校生の参加者が増えており、学校単位での参加促進もあったことから参加人数が増加した。各高校では「探究的学び」を実走するうえで、積極的に地域に生徒を出すため、このプログラムを活用している側面もある。複数のプログラムに参加したり、継続して活動に参画する子も出てきており、次世代の育成という大きなミッションを実現できていると感じる。

スタッフの育成では、これまで通り全国規模のものから市内開催のものまでさまざまな研修に参加した。 オンラインがノーマルになったことでこれまでは旅費の問題等で行くことが叶わなかった講座にも参加 でき、スキルアップにつながった。また、新人1名が新たに、ボランティアコーディネーション力検定 3級を取得した。さらに、県民協働課の呼びかけで、県内の中間支援センターの情報交換会も定着、各 センター主催の事業を協働事業化できるような方法を模索した。まずは、県民協働課主催のオンライン 講座のサテライトとして名乗りを上げたが、利用はあまりなかった。

(4) 施設管理業務

<事業内容>

- ① 利用統計資料の作成
- ② 情報交換スペースの管理
- ③ 備品類の管理

く事業目標>

- ・ 窓口業務における利用者数の増加
- 利用者によるセンターの評価向上
- 利用しやすい演出と情報の鮮度を保つ
- 他の機関とも広くつながりを持つ

<事業実績>

- ① 月末に 利用統計資料を作成し、担当課へ提出している 総利用者数 9,036人(内センター外 2,480人)
- ② 市内外の公益活動団体に関するチラシ・広報誌を収集、陳列
 - ・ センター内の2つの円卓は、その存在が認識されてきており、日々の情報交換スペースとして、団体の会議や交流イベントにも頻繁に利用された。
 - ・ 市内NPO法人については設立順・分野別に情報を整備し、内閣府の「NPO法人ポータル サイト」の情報をリンクさせホームページ上で公開



- ・ 団体別にファイルを作成し、チラシ、団体情報をファイリングしいつでも手に取れるように している(市内NPO法人・ながのまちづくり活動支援事業の補助金交付団体については、 個別のファイルを維持管理し、新設団体についてはファイルを追加)
- ③ 備品類の管理

<評価と課題>

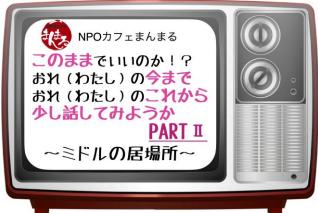
センター利用者数は 9,036 人(地域まるごとキャンパスに参加した学生 271 人、YouTube 視聴回数は 1,635 回は含まず・前年比 127%) とコロナ禍にも関わらず増えている。YouTube の再生回数も伸びており、今後動画でのセンター事業の PR もしていきたい。

全体的な利用者増については、もんぜんぷら座のスクランブル広場はじめ図書館や生涯学習センターなどが利用停止となった期間も、センターは感染対策をとりながら営業し、まんまるテーブルも極力利用を止めずにいたことが要因かと思われる。

コロナ禍で社会の課題が深刻化する中で、市民活動をする人たちの動きが止まらないよう支援して いくことの重要性を肝に銘じたい。

カフェまんまる・地域まんまる

SDGs まんまる



今までの自分を振り返って自分棚卸。 自分の興味あることや挑戦したいことなど、 いままでとこれからのことを同じ世代で共有し、 世界を広げるため、一緒にできることを探します。 素直な自分になって、ちょっと話してみませんか? 初めての参加大歓迎です!

日時: 4月17日(土) 14:30~17:00

場所: もんぜんぷら座3階 304会議室

定員: 15名

費用:参加無料(事前申し込み)

対象: 30代~40代

【申し込み・問い合わせ】 長野市市民協働サポートセンター(もんぜんぷら座3階)

TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052 MAIL:npo@ne





こちらのQRコードから お申し込みが可能です。

定年後は 何をする?



"人生後半戦"

働く? 遊ぶ? なにする? なにしても自由! だけど・・・ オジメン同志のしゃべくりタイムに

お気軽にご参加ください!

定年だって まだまだ若い

5月15日(土)10:30~13:00

もんぜんぷら座 3 階 304 会議室

参加費

もうすぐ定年の方、すでに定年を迎えた方! 対

定年前後の男性

定 15名(先着順)

メール: npo@nagano-shimin.net

「ゆる~いおっさんの会」 協

「ゆるーいおっさんの会」は、2 年前に開催した当講座の参加者を中心に

主 催・お申込み

長野市市民協働サポートセンター (もんぜんぶら座3階)

Tel: 026-223-0051 FAX: 026-223-0052

からお申込み下さい









「豊かな自然」に恵まれた信州の山里で鳥獣害が拡大しています。

一方で、私たちはグローバル化した産業社会のもとで便利な生活を送り、自然 との関わりが希薄になっています。

これからの自然との向き合い方をSDGsと関連づけて考え、意見交換をします。

【定員】20名 【参加費】無料(要予約)



【申し込み・問い合わせ】

市民協働サポートセンター (もんぜんぷら座3階)

TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052

こちらのQRコードから お申し込みが可能です。 MAIL:npo@nagano-shimin.net



政・NPOなど多様な人たちと考える場です。

中山間地で暮らすために必要な地域交通が少子高齢化、過疎化で衰 退しています。一方環境面、安全性から自家用車の利用について再考 を迫られているこの頃。自分たちの暮らし方を見つめなおし、住民が 望む地域交通を住民自身が考え、支える仕組みができたら

今回の地域まんまるは、鬼無里地区をモデルに住民主体の地域交通



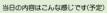
時:7月25日(日)13:30~16:00

所:鬼無里地区活性化センター



対象:住民自治協議会関係者・行政 NPOなど関心のある方

定員:50人(先着順)



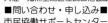
■情報提供■

0

長野市交通政策課(鬼無里地区市バスの現状につい こ)・長野工業高等専門学校轟直希准教授(地域交通の あり方、住民主体の地域交通について)・小田切地区 住民自治協議会(地域たすけあい事業について)

- ■ワークショップ■
- 「自分のために、家族のためにあったらいいな!!こん な地域交通」
- 「そのために必要なものは?ヒト・モノ・コト」 「実現のために、地域で、自分たちでできることは?」
- ★午前中には全国の事例をオンラインで視聴できるオプションがあります。裏面参照

主催:長野市市民協働サポートセンター 共催:鬼無里地区住民自治協議会



市民協働サポートセンター TEL:026-223-0051 e-mail:npo@nagano-shimin.net 申込みフォームからどうぞ ⇒



カフェまんまる・地域まんまる SDGs まんまる



SDGS & & & &



外国籍市民の実態と共生について考える

■話題提供と問題提起:長野県多文化共生相談センター 春原直美(すのはらなおみ)さん



長野市内には約4000人の外国籍の人が暮らしています。この中には技能実習生とし て県内の企業に働きながら日本語を学ぶ人もいますが、私たちの生活の中では多文化 共生といっても情報も不足し、わからないことが多いのが現状です。

これらをSDGsの基本原則でもある「誰ひとり取り残さない」「国際社会のパート ナーシップ」の観点から話題提供いただき、私たちができる行動について考え意見交 換します。

【定員】20名 【参加費】無料(要予約)



【申し込み・問い合わせ】

市民協働サポートセンター (もんぜんぷら座3階)

TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052

こちらのQRコードから お申し込みが可能です。 MAIL:npo@nagano-shimin.net

NPOカフェまんまる 🥉 による環境被害対策



地域における猫活動で大切なことは、地域住民が主体となり、人と猫が共生していかれる世界を作ること です。野良猫対策に関する講座から、市内や近郊地域での現状と事例の共有をおこないながら、参加者同 士の意見交換や交流で、今後の活動につながる取り組みを一緒に考えましょう!

野良猫対策〜地域猫活動へのアプローチ 講師:長野市保健所 動物愛護センター 宮下雅行さん

第2部 協力団体によるクロストーク

第3部 参加者同士の交流会

【時間】13:30~16:00

【会場】リアル(もんぜんぷら座3階304会議室) オンライン(zoom)※感染症予防のため、全オンラ 開催となる場合もあります。

【定員】各20名(参加定員を超えた場合は、第1部と第2部のアーカイブ視聴をご案内します)

【費用】参加費無料 (要事前予約 下記よりお申し込みお願いします)

主催:市民協働サポートセンター まんまる

共催:長野市

協力: しんけん動物病院、長野県動物愛護会 長野市支部 NPO法人一匹でも犬・ねこを救う会、千曲ねこの会

市民協働サポートセンター まんまる

mail: npo@nagano-shimin.net TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052

【お申し込み・お問い合わせ】

ふるさと納<mark>税や</mark>赤い羽根の募金、ベルマー<mark>ク</mark> ポイント、髪の毛、食べ物、検索する、#をつけてSNSに投稿する、など。 寄付っていろんな形があるんです。

12月の寄付月間に合わせて、寄付について考えたり、実際にアクションを 起こすきっかけになる企画を考えました。

寄付を通じて、わた<mark>しが「目指したい未来」を実現</mark>できるかもしれない。 そう考えたら、ワクワクしてきませんか?

※寄付月間とは、平成27年から始まった、全国的な寄付の啓発キャンペーンです。

寄付~KIFU~に まつわるエトセトラ



寄付から始まる新た な可能性を探そう

> 11/26(金) 17:30~19:30



募金箱づくり

12/12(日) 10:30~12:30





☆ながの協働ねっとは、寄付月間アンバサダーです☆

主催:ながの協働ねっと・市民協働サポートセンター 問合せ・申し込み:市民協働サポートセンター 026-223-0051 npo@nagano-shimin.net、または右記 フォームからお申込みください。





地域まんまる 2022

たかが草刈り、されど草刈り、地域の担い手が減る 中、生活道路や堤防、遊休農地や共有地の草刈りをどう するか?という問題があります。

今回の地域まんまるは、地域の草刈りがテーマで す。住民・行政が一緒になっても進まないのであれば 新たな一手をみんなで考えよう!! と企画しました。



2021

日曜日

こちらのQRコードから お申し込みが可能です↓

- 2022年3月14日(月)13:30~16:00
- 長野市中条交流センター
- 住民自治協議会・企業・学生・行政など 関心のある方ならどなたでも
- ・各地域からの状況や取り組み共有
 - ・芋井地区住民自治協議会より 「地域の現状について」 ・長沼ワーク・ライフ組合 代表・西澤清文さんより 「住民主体のしくみ構築と現状について」
 - 参加者全員での意見交換

参加書 無料

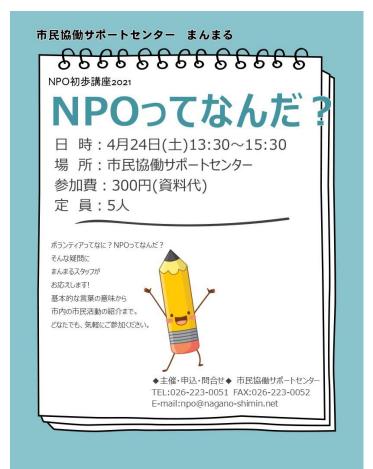
定 員 30人(申し込み必須)



■主催・申込み・問合せ■ 長野市市民協働サポートセンター TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052 e-mail:npo@nagano-shimin.net 申込みフォーム https://forms.gle/tPGYfFG2mJxoXHug6



初歩講座・ステップアップ講座





NPOステップアップ講座 広報のいろは

伝えるための広報講座



意識しないと 伝わらない!



日 時 6月26日(土) 10:30~12:30

講師 岡田義彦さん ソーシャルデザインセンター代表

所 もんぜんぷら座 3 階 304 会議室

NPOなどの団体で広報活動をしている人

定員 20人(先着順) 参加費 500円(学生無料)

申込み用フォーム

長野市市民協働サポートセンター

本事業は「独立行政法人環境再生保全機構地 Tel 026-223-0051 Fax 026-223-0052 e-mail npo@nagano-shimin.net



全オンライン開催(ZOOM) 参加費:無料 定員:各回20名 SUSTAINABLE GALS

下記QRコードより



高校では探究学習、大学でも地域連携が求められています。

高大生が一歩踏み出し、長野で活動していく学びづくりの場がより一層必要になっています。 今回は、「SDGs(持続可能な開発目標)」の視点に立ち、4つのテーマ別にゲストスピーカー をお招きし、多世代で共に学びあう場を設定します。

主催:ユースリーチ (運営主体:特定非営利活動法人長野県NPOセンター)

共催:長野市市民協働サポートセンター

お申し込みください ユースリー 協力: NAGANO SDGs PROJECT 助成:独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金、信州環境カレッジ地域講座

【お問い合わせ先】 ■特定非営利活動法人 長野県NPOセンター info@npo-nagano.org

TEL: 026-269-0015 FAX: 026-269-0016

■長野市市民協働サポートセンターまんまる npo@nagano-shimin.net TEL: 026-223-0051 FAX: 026-223-0052 特定非営利活動法人長野県NPOセンタ

ステップアップ講座



講師 粟津知佳子さん 民間の助成財団で 15 年間、助成制度 の設計・申請書の審査・事業評価など 助成金に関わる業務を担当。2019 年よ り長野県に移住し、現在はフリーラン ・ヘーパーやはし、現在はフリーランスで非営利組織の経営支援に携わっている。 象 NPO・地域活動に取り組む 個人や団体

参加費 500円 定員 20 人

長野市市民協働サポートセンター TEL026-223-0051 FAX026-223-0052

e-mail npo@nagano-shimin.net



仲間づくりの第一歩の踏み出し方から持続可能なコミュニティづくりを学びます。 実際に組織を運営、またはこれから活動を予定している仲間(3名以上)と参加し、 具体的なアクションプラン作成などのワークショップを交えながら、 コミュニティを運営するための実践的内容を学びます。

特に高校生など、これから仲間と新たな活動を予定している人必見です!

会場 もんぜんぷら座 304会議室 ೄ 呉 哲煥 (ご てつあき) さん

NPO法人CRファクトリー代表理事 (講師紹介は裏面参照)

【主催・問い合わせ・申し込み】 長野市市民協働サポートセンター



定員 もんぜんぷら座会場

オンライン受講 50名 対象

FAX026-223-0052

〒380-0835 長野市新田町1485-1 もんぜんぷら座3階

(学生のみの団体は参加費無料)

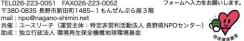
(できる限り1団体3名以上の参加をお願いします) NPO・PTA・地縁組織・ボランティア・ 住民自治協議会など団体運営をはじめた方 またはこれから活動を始める予定の方

オンライン 1アカウント 500円

またはオンライン (zoom)

(呉さんは、オンラインでの講義予定です) リアル参加 1団体につき 500円

フォームへ入力をお願いします。→





ユースリーチスキルアップ講座×NPOステップアップ講座 コラボ企画

11月28日(日)10:30~16:30 もんぜんぷら座3階会議室・オンライン併用

市民活動・地域活動をするときに、大切になるのが多様 な人たちとの話し合い。話し合いの場を豊かに、充実し た時間にするには、ファシリテーションの技術が必要で す。本講座は、活動の現場で使えるファシリテーション の基礎を一から学ぶことができる講座です。



■講師 鈴木まり子さん 特定非営利活動法人 日本ファシ リテーション協会フェロー ・鈴 木まり子ファシリテーター事務所 代表・法政大学等任護師・浜松の 企業が手をつなぐ災害支援ネット ワーク事務局長

共著『ソーシャル・ファシリテー ション 「ともに社会をつくる関

■内 容

第一部

話し合いのデザインを学ぶ

13:30~16:30 ファシリテーションのコツを学ぶ

NPO・住民自治協議会、市民活動・地域活動を している団体、個人、高校生、大学生など

■定 員 会場 20 人・オンライン 30 人 1,000円(学生無料) ■参加費

独立行政法人環境保全機構 ■助 成

地球環境基金 ■申込み フォームか、下記メ

スヘ



NPOステップアップ講座 会計のいろは

会計・税務 お悩み相談会

非営利市民活動団体の皆さま、会計処理、決算書類書作成などでの困り ごと、期末に際しての税務などに専門の税理士がお答えします。



初めての決算ですが・・

収益事業?

源泉徴収?

活動計算書?

財産目録?

身近なことから

お気軽にご相談ください。

貸借対照表??

時:3月19日(土)13:30~16:00

所: もんぜんぷら座3階市民協働サポートセンター

: 300円(1団体) 参加費

象: NPO、ボランティアなど非営利の活動をしている方 5団体まで事前予約制

(1団体につき30分程度の個別相談です) 師: 北原 正明さん(税理士法人成迫会計事務所税理士)

◆主催 お問い合わせ·申し込み◆ 長野市市民協働サポートセンター

長野市新田町1485-1 もんぜんぷら座3階 TEL: 026-223-0051 FAX: 026-223-0052 E-mail: npo@nagano-shimin.net

申し込みは こちらから



■主催:ユースリーチ(運営主体 NPO法人長野県NPOセンター)・長野市市民協働サポートセンター

■問い合わせ・申込み:市民協働サポートセンター TEL:026-223-0051 e-mail:npo@nagano-shimin.net

地域まるごとキャンパス









イベントフラッシュ NPOカフェまんまる

このままでいいのか!?おれ(わたし)の今まで おれ(わたし)のこれから 少し話してみようか part2 ~ミドルの居場所~

日時: 2021 年 4 月 17 日土曜日 14:30~17:00

場所: もんぜんぷら座 3 階 304 会議室

3月に行ったミドル世代をターゲットとしたカフェまんまる。前回からか継続で参加4名と新規2名で今回6名が参加。

前回の内容から、ミドル世代が必要としている場所は肩書を無くしたフラットに話ができる環境や場所であると感じていました。職場と家庭以外の新たな関係性を求める人々は多いのでは?と考え、今回は自分の「価値観」を元に、必要と思う場所について話をしてもらいました。

今回の自分の思い描く価値観の話の中では、「健康でありたい」ということが一つの大きなキーワードとなっていました。食生活の話、農業の話、仕事としての食の話など、食べ物を通じた健康という共通の話題が次から次へと飛び出しました。「自分の人生や子どものことを考えたとき、食べたもので自分ができているということを意識していたい」と、ちょうど年齢的にも人生中盤にさしかかったミドル世代が考えることも多いのかもしれません。

いままでの人生の振り返りとこれからを考えたときに、「安心」「安全」に暮らすこととして「食」への関心は大きな要因なのでしょう。今後はその関心をつなげるため、参加者同士の得意やスキルを相互に用いて、新たなものを作り出す場所を考えることや、すでにある場所の活用など話し合うのもおもしろいかもしれません。





NPO カフェまんまる 担当 藤澤

「定年後は何する? 2021」

日 時 5月15日(土) 10:30~12:30

場 所 もんぜんぷら座 304 会議室

参加者 14人(定員15人)

内訳 50 代 4 人、60 代 8 人、70 代 2 人

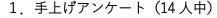
内 容 定年前後の男性限定の交流座談会

運営協力 「ゆるーいおっさんの会」9人

参加費 無料

取 材 長野市民新聞社

広報 チラシ、広報ながの、信濃毎日新聞、週刊長野、市民新聞、fb、HP



- ◆現在、働いている:8人
- ◆体力が続く限り働きたい:2人
- ◆もう働きたくない:5人
- ◆ある程度、健康には自信がある:5人
- ◆自分は認知症にならないと思う:0人
- ◆炊事洗濯など一人でも生活は平気だ、むしろ気ままでいい:2人
- ◆一人ではさみしい、家族やほかに話し相手がいないと困る:8人
- ◆妻との会話は少ないほうだ:5人
- ◆力関係では妻の方が強い:5人
- ◆高齢の親と同居している:6人
- ◆趣味や仲間がたくさんあるので生活は楽しい:4人
- ◆SNS を利用している:全員(Line-11、Fb-4、Twitter-3、インスタ-3、全部-2)
- ◆スポーツジムに通っている:3人

2. 自己紹介

参加者から、参加の動機や近況も含めて自己紹介をしました。

3.「ゆるーいおっさんの会」紹介

2019年5月に初めて開催した「定年後は何する?」に参加したメンバーがその後に結成した会。スライドを使って発足以降、これまでの活動や様子をメンバーの感想も交えて発表しました。

4. 交流座談会

・3 グループに別れて、参加者が付箋に書き出してボードに貼り付け想いを話しました。 ゆる会メンバー9 人も加わり座談会を開始、進行役はゆる会です。



- ◆テーマ①定年後の楽しみ、やりたいこと(黄色付箋)
 - ・妻との旅行
 - ・楽器の演奏や、趣味のこと
 - ・地域貢献
- ◆テーマ②定年後の心配、不安、悩み(青色付箋)
 - ・自身と妻の健康 妻と感覚がズレていないか心配
 - ・生活資金のこと
 - ・子どもの将来
 - ・親の老後、介護のこと
 - ・仕事、働き方について
 - ・やることがなく、時間の使い方



- ◆全体会では出された意見について共有しました。
 - ・定年前に思い描いていたゆったりとした時間は定年後に体験すると苦痛に変わる
 - ・女性は PTA やママ友でつながりを持っているが男性は仕事オンリーで地域とのつながりもなく定年後に居場所がない
 - ・SNS をやろうと思うがよく分からない
 - ・今日は勇気を出して参加した。定年後の楽しみを見つけに来た。



まとめ

今年で3回目の開催でしたが毎回満員になり、この世代の関心の高さを感じます。同世代同士、今後も 交流を続けひとつの居場所になればと思います。

定年でもまだまだ長い人生後半戦、体力の続く限り、知識・経験・ネットワークを社会で活かせる場を考えていきたいと思いました。

アンケート結果より

- (1) 自身の定年後に大切と思った点は?
 - ・交流、健康、生きがい
- (2) 今日の感想
 - ・皆さんも同じような悩みがあることがわかり安心した。意見を参考にしたい。
 - ・吐き出すことで気持ちがすっきりした。
 - ・いろんな話や考えが聞けてよかった。
- (3) 次回の交流会を希望しますか?
 - ・希望する 11 人
- (4)「ゆる一いおっさんの会」に興味がありますか?

・興味がある 12 人

次回は、ゆる会との

交流会の予定です。



「SNS、うまくつかえてますか?」

日 時 2021年5月29日(土)10:30~12:30

場 所 もんぜんぷら座 304 会議室

講 師 千野敬子さん・唐木快枝さん(ソフトバンク株式会社)

参加者 13 人 (定員 20 人)

内訳 学生2人 他 NPO·住民自治協議会

参加費 500円(学生無料)

広 報 チラシ、広報ながの、週刊長野、fb、HP、まいぷれ長野、ほっとパル

1. 自己紹介

参加者から、名前と参加の動機を含めて自己紹介をしました。

2. 全体ワーク

年代別で色分けしたふせんを使い、意見を出し合いました。

「SNS をやっている?何を使ってる?」

参加者自身が、どのSNSを普段どのように使っているかを出し合い、ユーザーの傾向を確認しました。

Facebook :「一般的によく利用されている」と思って、自分が投稿したり情報収集のために使っている人が半数以上。しかし、10~20代の参加者はいずれも使っていなかったことが判明。

⇒(追加解説)本名登録が基本になり、政治家も利用していたりと、「きちんとした情報を伝えたい」という比較的ソーシャルなイメージが強いもの。

Twitter: 半数が利用していたが、「見る専用」に使っていることが多いようでした。 10~20 代はいずれも利用、60 代以上はほとんど利用していませんでした。

⇒(追加解説)140 字以内で発信。文章も短く見ている人も多いので、炎上しやすい。

Instagram: こちらも半数が利用していたが、「見る専用」に使っていることが多いようです。中心は写真にメッセージをこめて発信していました。

⇒(追加解説)比較的新しいもの。写真を雑誌のように投稿していく。

Line: 家族・職場・友達とのコミュニケーションツールとして 9 割が利用していました。

⇒(追加解説)身近で、友達や仲間とのコミュニケーションツールとして多く利用されています。

②「なんで SNS をやっている?」【自分の SNS 発信の目的を考える】

なんのためにその SNS を使っているのか(あるいは、なぜ使わないのか)、自分の発信の目的を考えました。

Facebook:イベント告知

[witter]: サークルの新規加入申し込みの連絡、仕事上会社のことを知ってもらうために毎日投稿(ノルマ)、公式の情報(県や市から)を見るために使うが、それ以外はあまり信用していないので使わないという声も。

⇒今は嘘の情報をツイートや、リツイート(拡散)した場合罪に問われることも。その 情報が本当か否かを見極める必要があると再認識しました。

Instagram: 自分がすきなもの(動物・趣味など)の写真を見るため。投稿を見てメッセージを送り情報を得ることもあり、写真を中心にしたコミュニケーションツール。

- ⇒写真が目的なので、その写真をどこでどのように撮影するのかは注意が必要。
- ※どこで(場所):個人情報が特定されにくいように注意。家の中はX(制服など映り込みが危険)外でも電信柱など場所が特定されて家の場所が大体わかってしまうこともあります。子どもの顔や背景をぼかしたり加工することがおススメ。
- ※どのように(目的): どこに焦点をあてる?例①) 女性のナイトブラのブランドが告知する際「ナイトブラを持った女性がこれいいよ!と伝えている画像」と「ナイトブラをつけた女性がにっこり笑っている画像」見るターゲットが変わってくる可能性がある。例②) 動物の写真⇒伝えたいのは「かわいさ」or「虐待しないで」?選んで画像も発信する必要あります。

Line: 仲間内の連絡ツール。他に公式 line を開設し、イベントの告知や参加者の募集をしている人も。(オープンチャット)

③「ひやり・はっと体験」【危険体験の共有と対策】

参加者の身の回りで危ないなと思う体験や不安な点を出し合い、それに対する対策 を話し合いました。

- ※セキュリティーの危うさ⇒設定面は自分でできるが、情報漏洩などシステムの問題は個人では防げません。漏洩したときにどれだけ個人情報がそのSNS上にある(投稿している)のか…
- ※フェイクニュース⇒世の中に絶対にあると念頭におき、全てを信じるのではなく自分で見極めること。「自分自身がウソの情報を発信したり広めたりしないようにするには?」情報を発信=自分が責任を持って発信するという意識をまずは持つこと。仕事などで発信する際には多数の目で投稿を見てもらうことも有効。さまざまな媒体(新聞・ネット・本)で情報を集めて見比べること(普段から心掛け

- る)。これを書いたらどうなるか?を想像することも大事です。
- ※なりすまし⇒しかたない…個人では防げない
- ※のっとり(アカウントをのっとられてしまう)⇒<u>わかりやすいパスワードは絶対使</u>ってはいけない!個人レベルでも対策はできます。
- ※詐欺メール⇒情報をどう使われてしまうのかはわかりません。ここもまずは疑う、時間をかけて考える、他の人にも相談することが大事。

「みんなの発信、ちょっと見せて!」【いろんな視点を共有】時間の関係上割愛

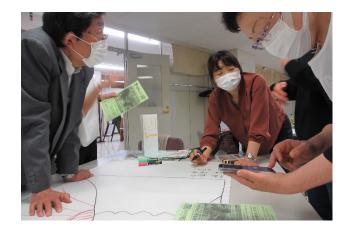
④グループワーク「上手に使ってみよう」【発信ワークショップ】

ここまで不安点も出し合ってきましたが、実際に使っていくにはどうしたらいいか、 今までまで考えた各 SNS (Facebook・Instagram・Twitter・line) の特性をふまえ、グ ループごとにイベントの広報をしてみました。

広報イベント:7月に開催される交流会「NPOカフェまんまる"自然との向き合い 方を考える"

作業風景



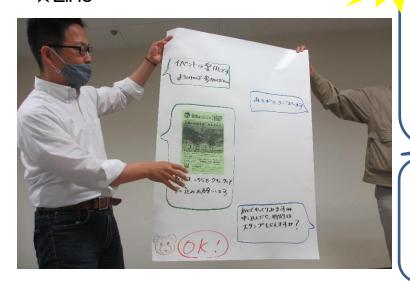


若い世代から教えてもらったり、他の人の投稿を 参考にしながら活発な意見交換。必死に、でも楽 しそうに作成していた光景が印象的でした。





★Line

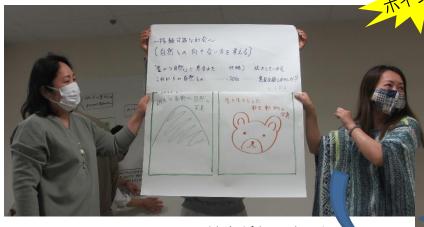


ン式アカウントのオープンチャット機能をイメージして作成。

元々オープンチャットはその機関・施設・企業などに興味のある人が登録しているので、イベントの詳しい内容は不要と考え、URLを貼り付け、その先はクリックして!

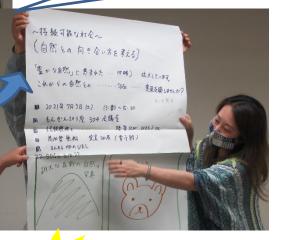
なるほど!オープンチャットの特性をふまえてますね!あまり長くても読みづらいですし、上手なやり方です。公式アカウントは基本誰でも登録できます。 (千野さん)

★Facebook

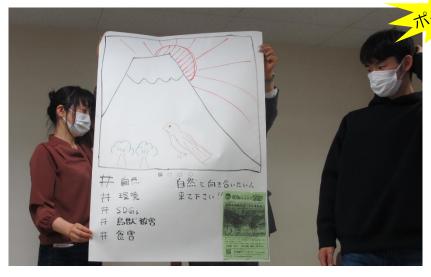


続きがありました

チラシ画像ではなく、動物の写真を使うのもいいで すね。最初の文面にポイントをおいているところも いいです!(千野さん) Facebook は最初の画面では途中までしか掲載されないので、最初の方の文面に工夫をしました。動物の写真をつかっていかにキャッチーなものを作るか…



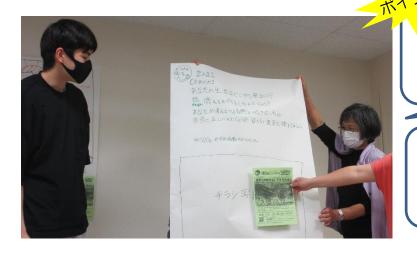
★Instagram



インスタは#(ハッシュタグ)を使って検索してもらえるので、そこをねらい、#のみしています。 写真はインパクト重視!

普段使っている 現役世代が発表!

★Twitter



140字の字数制限があるのが大変でした。重要なトピック「言葉選び」を意識して作りました。

とても悩みながら作っていました ね。コンパクトに文面をまとめて います! (千野さん)

アンケートから

- ·SNS それぞれの特徴を知ることができた。
- ・自分よりも上の世代との交流が面白かった。
- ・上の世代が SNS の理解をしていない人が多いということを知った。
- ワークを通じ、こういった話をする場ができてよかった。
- 後半のワークの時間が足りなかった。
- ・前半のワークは要点をとらえてまとめられてよかった。
- ・自分の普段使っていない SNS のやり方も見てとても楽しかった。もっとうまく使っていきたい。

まとめ

SNS やネットリテラシーというと、こわいというマイナスイメージを強く持ってしまう人や逆にその危険性を考えずに発信してしまいトラブルに巻き込まれる人もいます。これからの時代、プライベートだけでなく仕事や活動する上でも利用を求められ、触れることが避けられない状況になることも想定されます。

大事なことは、その危険性や良さ、自分は何のためにどれを使うのかを考え、SNS に振り回されるのではなく、ツールとして活用していくということだと思いました。

今回の講座はそのきっかけとして、今後も自分の団体の仲間の中でもこうして考える機会を作ってくれたらとも思います。

「伝えるための広報講座」

日 時 6月26日(土) 10:30~12:30

場 所 もんぜんぷら座 304 会議室

参加者 14人(定員20人)

内訳 NPO・市民団体7人、

住民組織3人、ユースリーチ高校生4人

内容 伝えることを意識した広報について、

個人ワークをしながら講義形式で学ぶ

講 師 岡田義彦さん

(ソーシャルデザインセンター代表)

参加費 500 円

広 報 チラシ、広報ながの、週刊長野、

市民新聞、fb、HP



1. 広報活動のメリットと役割

広報の4つの役割

- (1) 自社と社会の架け橋としての役割
- (2) コミュニケーションハブとしての役割
- (3) ブランディングを推進する役割
- (4) メディアリレーションズで良好な関係構築する役割
- 2. 広報の種類

社内広報、社外広報

有料広告、無料広告

プレスリリースを有効に利用する。

- ・メディアを味方にする、マスコミに取り上げられればベスト
- ・新聞は40代以降に有効な媒体。また購読者が多い地域なども意識したいところ。
- ・マスコミが取り上げたいテーマ、 社会性、公共性、新規性、弱者救済
- ・マスコミが欲しがっているネタ 感動と特ダネ
- ・マスコミといっても担当者は一個人であり、いかにその個人との関係を作れるかはポイントになる。

3. 個人ワーク

- 1. あなたの商品、サービスはなんですか
- 2. その目的は、何を目指しているのか
- 3. 誰のための商品、サービスか
- 4. その人はどういう人か、年齢、性別、仕事、興味など絞り込み
- 5. その人にどう伝えますか
- 4. 目的達成のための 3M
 - ①マーケット
 - ②メディア
 - ③メッセージ
- 5. 広報する上での仕組みの設計図 重要な要素
 - ①目的
 - ②目標
 - ③ターゲット
 - 4)戦術



◆講座の中のキーワード

- ・広告費はコストだと思われているが、これは投資だと考えるべき。
- ・ベースは<u>既存客</u>です。新規客も重要ですがやはり既存客をいかにリピーターとして呼び 止めていくか。
- ・時間、人手、お金がない中での広報活動は苦労が多いが、広報にも戦略が必要。

◆参加者からは

- ・ワークの5つのポイントが納得できたので、早速活かしていきたい。
- ・ターゲットの絞り込みとそれに合ったアプローチの仕方が学べた。
- ・人にどうやって伝えればよいのか、これからに役立ちそう(高校生) 以上



SDGs まんまる「自然との向き合い方を考える」

日時:7月3日(土) 13:00~15:30

場所:もんぜんぷら座3階 304会議室

参加者:17人(定員20人)

動物 NPO 関連、動物園従事者、地域おこし協力隊、

地域福祉系市民団体など

内容:「豊かな自然」に恵まれた信州の山里で鳥獣害が拡大しています。その一方で、私たちはグローバル化した産業社会のもとで便利な生活を送り、自然との関わりが希薄となっていることから、自然との向き合い方を SDGs と関連づけて考え意見交換した。

話題提供者:陸斉さん(信州野生生物保全センター)

参加費:無料

広報:チラシ、広報ながの、市民新聞、信濃毎日新聞、Facebook、ホームページ

今年度より SDGs をテーマにカフェまんまるを開催。まず参加者同士での自己紹介をおこない、続いて陸さんより里山で起きている鳥獣害の現状についてお話しがありました。

近代以前までは被害が甚大だったものが、終戦頃には工業の発達とともに日本の森林伐採が進み、農地の拡大や毛皮需要もあり被害も減っていました。しかし近年自然界や人間系の崩壊によって、里へ獣が分布。その対応が不十分なことで獣害被害が発生し続けるようになったといいます

耕作放棄地が多くなり耕地と里山が連続し垣根がなくなりつつある中で、自然と人間系は地域の共同体として対策が必要で、「減らす」ではなく「増やさない」ため、地域全体で計画的に講じていくことにとりくまなければならないという話に、「獣害について知る初めての知識があった」とうなずく参加者も多くいました。

後半は交流会として「感想」「参加した理由」「自分たちの課題・取り組み」を付箋に書くことで、それぞれの 意見を出し合いました。

担い手不足という現実があり取り組むことに後ろ向きであった。しかしまずは現状を知ってもらうことが大事で、地域全体で取り組みあせらずすすめるようにと、前向きに考えることができたと感想がありました。

今回様々な業種・職種の方がいたために、それぞれが抱える問題など共有できたことで、講義のみならず交流 による気づきがたくさんあったといいます。

持続できる地域をつくるためにはどうしたらいいか。

今後もさまざまな SDGs のターゲットを題材に、地域の問題提起と交流をおこないながら考えていきたいと思います。











鬼無里でくらし続けるために

まとめ







日 時:7月25日(日)13:30~16:00 場 所:鬼無里地区活性化センター

参加者: 鬼無里地区住民、地区外住民自治協議会関係者、行政、NPO、介護事業者など 53 人

今回、鬼無里地区住民自治協議会事務局長の吉田廣子さんのつぶやきから地域まんまるを鬼無里で開催することになりました。吉田さんは「自分が今後高齢になり、車を手放したときを考えると、今の交通ではとても暮らせない、かなりの市税を投じて市バスが動いているが、これを住民主体の交通にすることはできないか考えている」とスタッフに話しました。一昨年の小田切地区、昨年の川中島地区と地域交通をテーマに地域まんまるを開催してきました。「なんとかしたい」吉田さんの思い、みんなでアイデアを出し合えば何か良い方法が出てくるのでは?となり。開催に至りました。

当日はオリンピック開幕の4連休、コロナ禍にも関わらず53人が集まりました。



開会あいさつ。開催の経緯を話す 吉田さん

◆情報提供◆

「地域公共交通を考える」轟直希さん(長野高専准教授)



そもそも日本の公共交通は海外とはどんな違いがあるのか? フランスやドイツは公共交通サービスは行政が行うもの。基本的人権で交通権を規定するなど移動は国民の権利ととらえている。では、日本は? 日本は民間事業者が公共交通を担い、国が支援する形。ビジネスとして成立しなければ撤退もあるという状況。行政としては地域公共交通の維持が役割となっていて、事業者の役割は安全や利便性を保障すること。

では、市民の役割は? 地域公共交通を支えるために市民も積極的に 関わることが大切と轟さん。現役世代がマイカーにばかり頼っていると 公共交通は維持できなくなることは今の長野市内を見回せばわかること。

今後に向けてみんなで考え、対話し、意識を変えていくことが必要。

事例として、一つは豊岡市の市営バス「イナカー」と住民主体の「チクタク」を紹介。最低限の利用を確保するための分析に基づいてサービスを分けている。また、氷見市では NPO 法人が運行するバスを紹介。しかし、ドライバーの高齢化の課題はある。

最後に、長野市が SDGs 未来都市に選定されたことから、SDGs の観点からも公共交通の維持は必要不可欠なターゲットとなっていることを説明。

「鬼無里地区市バス運行・利用状況」 市交通政策課

現在鬼無里地区内を走る市バスについて、人口動態やこれまでの利用の推移を提示。人口減少と共に市バスの利用人数も減少、ここ数年市が 1600 万円を負担しているとのこと。また、他の中山間地を走る市バスや乗り合いタクシーと比較しても一人当たりの市の負担額はかなり高額になっていることがわかった。地区内はどの路線も 200 円で乗れるが、本数はかなり少なく、毎日走らない地区もあり、利用する側も運営する側も苦しい状況。

「小田切地区地域たすけあい事業再編について」



柳澤厚史さん(小田切地区住民自治協議会事務局長)

小田切地区では、一昨年から約1年半かけてモデル地区として「地域たすけあい事業」(住民自治協議会と社協協働の取り組みで、家事援助と福祉自動車がある)の再編に取り組んだ。住民有志と福祉関係部会、地区内のNPO関係者、地区に拠点をもつ高校などからなる「和輪話の会」が中心となり議論を重ねた。この7月1日、行政や社協との調整も含めて完了しその名も「お互助っ人(おたすけっと)」事業の実施に至った。これまで地域たすけあい事業の福祉自動車ではできなかった買い物支援をはじめ、ゴミ出しや草刈りなどさまざまなたすけあいの活動ができ

るようになった。また、移動支援では、サロンへの足として役員や地区内住民がマイカー移送していた活動 もたすけあい事業に位置付け、社協が保険に加入し無償で送迎をする。小田切地区にはデマンドバス「かつ ら号」もあり、特に地区内の移動が充実したと報告。

◆ワークショップ(意見交換)◆

前半の情報提供を受けて、参加者全員で意見交換。

テーマ1「今の自分の地域の交通に満足していますか? その理由は?」



一見満足・やや満足が多い ように見えましたが、実は、 「今は」「マイカーがあるの

で」と言う意見が多く、本当の意味で満足しているとも言い切れない 状況が見えてきました。また、不満ではやはり運行の本数や時間が生 活スタイルと合わない、料金が高いなどの意見が多くありました。バ ス停までが遠くて歩けないという意見も。

テーマ2「自分のために、家族のために、あったらいいなこんな地域交通」

できるかできないかわからないことも含めてとにかく出してみよう!ということで、さまざまな意見が出ました。

いつでもどこでも乗れる交通は確かに理想で、自家用車やタクシーに近い利 便性を公共交通でとの声が多くありました。また、今の技術ならできるのでは? と、イノベーションを求める声も。

自動運転や高齢者でも運転できる車、バスの所在がわかるシステムや CO2 が 出ない車、ドローンや空飛ぶタクシー、シェアサイクル、自転車ごと乗れる交通 機関なども挙げられました。



他にも山間部の住民からは週末の夜だけ遅い時間の便があったら飲んで帰るときにありがたいという声、地区と市街地のノンストップバスなど。各地区から長野駅などの中心部に向かう交通はあるものの、地区内の移動や近隣地区との移動にはまだまだ車が必要なのか?ということも見えてきました。また、通園・通学のために安価な交通を望む声もありました。これは切実です。

テーマ3「テーマ2を実現するために必要なもの(ヒト・モノ・カネ・情報など)は? クリアすべきことは? 地域でできることは?」

すぐにでもできることとして、タクシーの有効活用をはじめ、自分も利用者になる、乗って公共交通を応援するなど利用することで地域の交通を守ろうという意見。イベントなどの企画に外部の力を活かすため



に、お買い物バスツアーなどをうまくコーディート、企画するというアイデアが出ました。さらに、需要を正確に調査、数字データを意識することから始めようという声もありました。

鬼無里地区出身で市街地に暮らす参加者二人からは、地区を離れた子どもたちもできることがあるのでは?協力者を募りリストアップしてはどうか?と提案がありました。

今あるサービスの規制を緩やかにしてほしいという意見も多く、法律の壁と経済的な自立をどう調整するのか?実現に向けて何をどうしたらいいのか?財源をどうするのか?どうしてもこ

れらの話題は避けては通れないようです。

◆まとめ◆

陸運支局の山屋卓郎さんからの総括

事業者もなんとか地域の足を維持しようと頑張っている。地域の皆さんも何とか したいと思ってくれていることをとてもうれしく思う。もし、バスがなくなったら? と想像をしてみてほしい。自分ごとにして、今日のような議論を続けてほしい。



ファシリテーター・長野県NPOセンター代表理事山室 秀俊さんからの総括

今日もさまざまな課題意識や、それに対するアイデア がたくさん出された。ここで話したことをここで終わり

にするのではなく、地域に持ち帰って、地域で議論を進めてもらいたい。



◆それぞれのワークショップのフセンから◆

テーマ1「今の自分の地域の交通に満足していますか? その理由は?」

▼今は満足

- ◎ 乗らないのでわからない
- ◎ 駅から近く運行本数も多い。しいて不満があるとすれば大きな病院に行くのに不便なくらい
- □ 同じ地区内でも山間部は不便。自分が住んでいるところは週3回くらい利用するくらいにほぼ満足
- ◎ 自分の地区は JR もバスもあるので満足
- ◎ 特に不自由を感じていない(住宅街在住)
- ◎ 電車があるので長野駅までは行けるが、近隣の地区(柳原・長沼)に行くのが不便(豊野在住)
- ◎ 支所内でバスを待てる。屋根も飲み物も椅子もあるし(鬼無里地区在住)

▼マイカーがあるので満足 ついつい乗ってしまう・・・、便利さ優先

- ◎ バスが便利な場所に住んでいるが乗ったことがない、マイカーに頼ってしまっている。
- ◎ 自家用車があるので満足
- ⊚ 今はマイカーで自分で動けるが、自分で動けなくなったら心配
- ◎ 交通とはバスだけ?道路は?トンネル問題とか道路整備は?

▼やや満足

- ◎ マイカーでしか動いていないことを申し訳なく思う
- ◎ バス通勤、最終が 20:30 分で休日運休
- ◎ 公共交通や化石燃料を使用しない移動にシフトしたい!!
- ◎ 自分はほぼ満足しているが、体の不自由な高齢者のサポートが難しい

▼不満

- ◎ 最終が早い。市街地で飲んで帰ってくるのにバスで帰れない
- ◎ 本数が少ない
- ◎ 休日の本数が少ない
- ◎ デマンドバスが予約制で時間が合わない
- ◎ そもそも電車やバスにみんな乗っていない!!
- ◎ 料金が高い
- ◎ 家の近くまで来ない、バス停が遠い
- © そもそも世帯数が少ないところはデマンドすら走らない

テーマ2「自分のために、家族のために、あったらいいなこんな地域交通」

① イノベーション

- ◎ ドローンでドア to ドア
- ◎ シェアサイクル(電動キックボードとか)
- ◎ 自転車ごと乗れる交通機関
- ◎ 空飛ぶタクシー
- ◎ 自動運転の実現
- ◎ 高齢者でも運転できる車
- ◎ 事故のない安全な交通
- 運行状況がわかる(バス停などで今どこにバスがいるか、いつ頃バスが来るかなどがわかる)と利





用しやすい

- ◎ 燃料を CO2 が出ない交通手段に変換してほしい
- ◎ 通院用のバスシステム

② 目的地と時間の選択

- ◎ 週末便で夜運行。9:30 とか 10:00 頃
- ◎ 自宅→病院→買い物→自宅で片道 500 円くらいの送迎バスがあったらいいね
- ◎ 融通が効いて、見守り機能があるといいなぁ
- ◎ 鬼無里⇔市街地ノンストップ便
- ⑤ 長野駅行き以外のバス。大きな病院までなど
- ⊚ 病院以外のいろいろな場所に行ける福祉有償輸送

③ 料金

- ゅ 中高大生のための鬼無里⇔市内 200 円!!!お願いします!
- ◎ 高校生の通学無料
- 料金が一律だったらいいなぁ(高齢者だけでなく市民みんなにおでかけパスポート)
- ◎ 幼稚園送迎時用バスパスポート1回100円とか?
- ◎ 低料金でいつでもどこででも乗り降りできる(小さくていい)車
- ◎ 運賃の電子決済(ポイント還元)

4) 循環

- ◎ 地域の中を循環してくれる小型のバス
- ◎ 公民館→地域の病院→スーパー→駅→
- ◎ 自動の循環バス・他地区を結ぶバス

⑤ 乗り合い

- 家族でシェアできるサブスク
- ◎ 地区内の乗り合いタクシー・小型バス
- ◎ ご近所乗り合い連絡便
- ◎ グループごと目的地へ。同好会などの仲間を連れて行く仕組み
- 乗りたいときに乗れる乗合自動車?
- ◎ 困ったときに同乗させてもらえる交通
- 近所の人たちで目的地を揃えて一緒に買い物や外出ができるシステムがあれば良い(各家にタブレットがありそこに入力するなど)

⑥ デマンド

- ◎ 予約し自宅まで迎えに来てくれる。自家用車で OK(ただし保険完備)。地区内自由運行手形
- ◎ 前の日に電話予約して玄関まで迎えに来てくれ、上限キロ数範囲は同一料金で、それ以上は割増料金で利用できるもの。



- デマンドバスはバス停からバス停まで。スーパー・ホームセンターなどまで行ってほしい
- ◎ タクシーのように利用できる交通、料金は安く
- ◎ バス停がなくても行先を指定できる
- ◎ どこでも乗車・降車できる公共交通

その他

- 市街地に出た子どもたちのネットワークによる運転ボランティアで中山間地の地域交通を支える
- イベント要素を取り入れた特別なバス(乗っている間地域のことを知ることができるはとバスみたいな)
- ◎ 子どもや高齢者が利用しやすく乗って楽しい交通が理想。車体ラッピングとか!!
- ◎ 登録が要らない移動サービス
- ◎ 国民の足は国で供給

テーマ3「テーマ2を実現するために必要なもの(ヒト・モノ・カネ・情報など)は? クリアすべきことは? 地域でできることは?」

① イノベーション

- ◎ サイクルツーリズム。バスに自転車をそのまま載せられるように。サイクルイベントコースの創出
- ◎ 日本の技術とアイデアならできます!!
- ◎ 利用しやすくするマッチングアプリ
- 寧 実証実験。国の事業などに手を挙げる
- ◎ 自動車メーカー(トヨタなど)との連携。中山間地に適した車を乗り合いバス(小型)など開発してもらう
- 自動運転の車の利用したい人をマッチングさせるサイトの整備(車の導入、システム導入の経費が問題)
- スマホで行きたいところ、時間を入力。タクシー会社が効率的な配車スケジュール作成し通知、OK したら乗り合い、料金は割り勘

② 目的地と時間の選択

- ◎ まずは今の路線、本数を維持するためにたまにはバスに乗る!!
- ◎ 路線バスの利用者が多い時間帯の把握。どの時間なら路線バスの利用があるのか?を知る
- ◎ バスの運行時間の見直し(本数が減っても・・・)
- ◎ かつら号の停留所を善光寺・大門まで延長(ヒトモノカネ不要)
- ◎ 地域ごとに曜日、場所を決めて運行するようにしたら(ただ、運転者がいるか不安)
- ◎ 選択できる移動サービス、病院も店舗も飲食店も送迎付きにする(義務化)
- ◎ ニーズに対してそれらを集約して運行経路を組み替える
- つながりを強くする。予約含め誰が何時ごろどこへ行くかをコーディネートする人が支所にいて、何人かまとまったら発車。支所へ連絡する交通係を地域に置き、その人たちが定期的に集まって課



題を話し合う

③ 料金

- ◎ 公的資金の投入
- ◎ サブスク(月額乗り放題○○○円)になれば私は買います!
- ② 通学割引
- ⑤ 自然エネルギーへの転換
- ◎ 何をするにも財源が必要なので、セミノルマとして3カ月に1回公共交通に乗って支援する
- ◎ 利用回数によって料金還元される
- ◎ 多くの人に利用してもらう。バスの時間を増すことで利用者が増えて料金が安くなる
- 買い物などの送迎。一定の人が集まれば店舗や施設で出してくれるのでは?
- ◎ 数字・データ(市の負担額一人当たりの負担額)

4 循環

- ◎ 利用しやすいように工夫する。地域住民の理解・協力、市の財政が必要
- ◎ 目的、場所そこを利用する人、自宅も一元管理して必要な時に循環するバスを走らせる(住自協・地区でのシステム作り)

⑤ 乗り合い

- ◎ 友達近所で困ったときに連絡し合える関係づくりとシステム構築
- ◎ 近所で共通タブレット端末
- ◎ 小田切地区のようにマイカーを利用してサロンや体操教室へ誰でも 行ける環境を作る。そのためにはコーディネートと保険の問題をクリ アする必要がある
- 地域内で本当に乗る人と乗らない人を整理して、乗る人に寄ったシステムに
- 地区内での登録による予約ができるソフトなど(乗り合いで飲んでも大人数で帰れる・・・料金安くなる)
- ◎ マイカーによる移動支援
- 私も鬼無里出身です。月 1~2 回なら鬼無里の高齢者の送迎可能です。協力者をリストアップしたらどうでしょうか?無料で可。

⑥ デマンド

□ ニーズに応じた利用者と目的地をマッチングする運行システム(AI?)

▼その他できること!!

- ◎ 福祉輸送サービスの制限をゆるやかに
- ◎ 自家用車利用輸送の保険、整備代の補助など
- ◎ 地域たすけあい事業再編について地域の中で声をあげる
- 具体的なニーズを調べるため、区長などに提案して、不満と思っている方にアンケートを実施する必要がある
- © ①から⑥まで全部について、特区の申請などで実験できるように



- ◎ 自然エネルギーの売電利益を交通システムの経費に充てる。山にはスペースがある。
- ◎ スーパーなどの企画で買い物バスをお願いする
- ◎ 健康でいる!!
- ⑤ 「電車・バスに乗ろうよ運動」各小学校で子どもと親向けワークショップ
- ◎ イベントで路線維持。外部の力をコーディネートして活用
- ◎ 同世代で話せる場を作る。80代カフェ、70代カフェ、40代、30代・・・。
- 地域公共交通を守っていくという意識を持つことが大切。どんな便利なサービスでも利用者がいなければ成り立たない
- ◎ 地域公共交通の積極的な利用。なくなったらどうなるのか?想像してみることも大切
- ◎ 市報などで公共交通の斡旋を強化。山間地の活性化を含めて魅力を発信する

◆アンケートから◆

- ◎ 多様な人たちからいろいろ意見が聞けて良かったです。みなさん地域の交通に関心が高く、このような人たちをパートナーとして一緒仕事をしたいと思いました
- 利用者が利用しないと成り立たないという話、想像力を活かせるアイディアがありおもしろかった
- ◎ たくさんの課題が出されて、情報収集ができた。
- ◎ 地域の課題を地域住民同士で話し合える場が必要と感じた
- ◎ 問題の共有はできたが、行政や運行業者の働きかけはどうなるのでしょうか?また、住民への意識付けをするにはどうしたら良いのでしょうか?
- 地域に関係なく交通の課題が同じところがある。大本から考え直すタイミングに来ていると思う
- ◎ 今の問題だけでなく、5年後10年後にどうなっているかの視点で話をしてみたかった
- ◎ 公共交通に限らず、地域の課題をざっくばらんに話せる機会はとても重要だと思った。
- ◎ 参加者から出た意見はどう反映されるか?
- ◎ 改めて自分ごとと考えて想像することの大切さを感じました。
- ◎ 他地区の人たちと話すことで自分の地域だけでは出てこないようなアイデアがある。地域性にこだわらない話も大切
- ◎ 陸運局の方の「普段使っていない人が、もしなくなったら・・・と想像するのは難しいという言葉が胸に響いた
- 多くの知見、アイデアを共有する機会になりました。今後の活動に活かして、少しでも地域に役立 つものにしていきたい

担当のつぶやき・・・(;^_^A

地域の交通の問題は、福祉や経済と切り離して考えることはできません。大人 1 人に 1 台マイカーが当たり前のようになっている長野市民。便利さと持続可能な地域の間で悩む今。今後地域の交通をどう守っていくのか?守る必要は実はないのか?とすれば本当に必要なのは何なのか?も含めてさまざまな視点から議論し、私たち自身の頭の中にイノベーションを起こしていくことが求められているのではないでしょうか?

来年度もこのテーマでみなさんと話してみたいと思っています。



ユースリーチ公開講座×SDGs集中講座

夏休み、お家にいてもSDGsが学べる!! SDGsを身近に感じることができるように・・・。 高大生と一緒に考える身近で深ぁ~いSDGsを知る時間として企画。

日 時: ①8月7日(土)13:30~15:00 ②16:30~18:00

③8月11日(水) 13:30~15:00 ④16:30~18:00

場 所:オンライン開催

参加者: ①19 人 ②11 人 ③8 人 ④17 人

テーマ:国際理解 「お隣さんは外国人 多文化共生ってなあに?」

ゲスト:小林フディアさん(NPO法人ムワンガザファンデーション)

ナラスさん(国際交流コーナー・長野市国際交流員)

フィデアさんは、結婚を機に、パートナーの故郷長野県飯綱町にタンザニアからやってきました。

日本に来てよかったことや、長野はとても良いところと話しました。結婚して同居した義父と義母の存在がとても大きく大切だったことやエピソードも語りました。

中でも、タンザニアの4つの宝物の話が参加者の心をつかんだようです。

お年寄り、子ども、障がい者、お客さん。

お年寄りには生きる知恵があり、子どもは希望、みんなで育てる。

障がい者は神様に一番近い存在で、弱い、かわいそうな人ではない。

そして、隣の村や外国から来る**お客さん**も大切にする。1日目はお客さんとして、2日目からは家族として。

タンザニアには助け合う、分け合う精神が根付いているとフィデアさん。日本に来て差別を受けたり辛いこともあったそうですが、明るくポジティブで人と会うのが大好き。サンクゼールの仕事も楽しみながらずっと続いています。

ナラスさんは、中国内モンゴル出身。信大工学部大学院を卒業して、もんぜんぷら座国際交流コーナーで働いています。

冒頭、長野市在住の外国籍の方の人数やどこの国から来ているのか? など基本的なデータを示してもらいました。ここ数年増加しているのがベトナム人、その多くが技能実習生とのこと。

ベトナム人をはじめ、外国籍の人たちは日本語の難しさに困っていると話しました。あいまいな表現や数の表現が複雑、丁寧語や謙譲語などなど

など・・・。簡単に、はっきりとわかりやすく「やさしい日本語」で伝えることが大切だそうです。



後半はそれを受けて、ユースリーチの高 大生が企画したワークショップ。

「やさしい日本語」に言い換えてみよう! をクイズ形式で参加者に投げかけました。 「避難」は? 「つきあたりを右に」は? ゲストの二人にもアドバイスをもらいな がらみんなで学んだ時間でした。



テーマ:ジェンダーレス 「今からでも遅くない! ジェンダーレス」



ゲスト:白澤章子さん(元養護教諭で川中島の保健室)

白澤さんには、まずは、性について、科学の面から話してもらいました。人間が生まれる前からどうやって性が決まっていくのか? (あるいは決まらないのか?)もともとはすべての受精卵は女性で、それがいくつかのタイミングで男女を分けていく。

カタツムリは雌雄同体。これは比較的知られいてる話ですが、ウミガメは卵が埋まっていた砂の温度で性別が変わるそうです。

驚きと感動に満ちたお話。

紙芝居では、トランスジェンダーの「マコト」さんが登場し、参加者に「男らしさ」「女らしさ」って? と問いかけます。LGBTQ、多様な性が存在する中で、多数派は普通ではない、多様性を認め合う社会ど うしたら築ける?

最後に白澤さんから「妊婦さんはなんで生まれる前に性別を聞きたがるのでしょう?」という問いが投げられ、後半のブレイクアウトセッションへ。

各グループでは白澤さんの話についての感想をシェア、自分の体験や自分の周りの人たちのことなどが 語られました。

参加者の中に中学校の先生も。子どもたちにこういったことを学び考える機会をどう作ったらいいか? 考えたいと話しました。

また、高校生からは「生徒会は男女半々だけど、なぜか?会計は女子とか役割が固定していておかしい」

「子ども服の色はどうして女の子はピンク、男の子はブルー?どっちでも選べるようにしてほしい」など、素朴で重要な疑問も投げかけられました。



テーマ:環境 「いまさら聞けないゼロカーボン」

ゲスト: 浜田崇さん(長野県環境保全研究所)

「いまさら聞けない、いまだからこそゼロカーボンです」という前置きから始まった浜田さんのお話。

温室効果ガスは生命を存続させるためには必要なものです。しかし、今、 じわじわと増えて気温が上がっています。産業革命以来 1.2℃地球の気 温は上昇しています。年間の猛暑日や雨の量も増加、このままだと 2100 年には4℃上昇すると言われていて、長野の平均気温が今より 4℃上が



ると今の九州くらいの気温になり、りんごも作れなくなります。今から温室効果ガスの排出を減らす対策=

ゼロカーボンへの取り組みをしっかりやれば平均気温の上昇は1℃前後に抑えることができるそうです。

しかし、CO2 は私たちの目には見えません。それを感じるために、浜田さんからクイズが出されました。 1 ㎡の空気の中に CO2 はどれくらいあるか?・・・答えは 7 ㎡。1 ㎡の CO2 の重さは?・・・メロン 1 個分。 そして、家庭から 1 日に出される CO2 の量は?・・・1 ㎡の箱 5 個分で、中でも自動車と電気製品がだ出している CO2 がどちらも 30%前後と多いとのこと。

CO2 を見えるかする一つの方法として浜田さんから「カーボンフットプリント」という取り組みを聞きました。商品の原材料調達から廃棄リサイクルまでの間にどれくらいの CO2 が排出されるのかを表すものです。まだまだ取り組みとしては広がっていないそうですが、ひとつの指標になりそうです。

後半は参加者で意見交換。CO2 の見える化と一人一人ができることについて話し合いました。各グループからはおもしろい意見が出ました。「カーボンフットプリントが付いた商品だけの専門店」「CO2 削減に寄与するとポイントなどが付与されるような仕組み」「CO2 がたくさん出そうな日は注意報が出て、家族みんなで家で過ごす日にする」「自転車通勤や通学を奨励、自転車や徒歩でくらせるまちづくりをする」「小中学校で学ぶ機会を」などなど。浜田さんからは「みなさんのいろいろなアイディアがとても勉強になった」と言っていただきました。



後日、企画に関わったユースリーチメンバーは「長野県環境フェア」でこの時の結果を発表する機会をもらいました。多くの人に伝わっていたらうれしいですね。

テーマ:教育 「10 代と考えるこれからの教育」

ゲスト:池田聡子さん(みんなの学校)

池田さんは、小中学校の先生として長年教育に携わってきました。公立の学校には良さもあるけれど、どうしても決まった枠に子どもたちははめなければならないことに辛さを感じていました。そして、ご自分のお子さんが、公立の学校に入ったらこの子の良さが失われてしまうのでは?と思い、自分で「みんなの学校」を立ち上げました。

みんなの学校がめざすのは「一人ひとりが、その子らしい個性を生か



して、自分の力を生き生きと発揮していける姿」「相手のことも尊重し、ともに生かし合う喜び」です。 でも、始めてみたら、池田さんの想いに共感する保護者や学校に行くのが辛い子どもたちが集まってきま

でも、始めてみたら、池田さんの思いに共感する保護者や学校に行くのか幸い子ともたらか集まってきました。求められている場所だったのです。そして協力してくれる創造性豊かな大人たちも集まってきました。 みんなの学校に来る子どもたちは、**安心して自分らしい歩みで学べる換気用を得てどんどん力を発揮するようになります**。そして、池田さんは「将来自分で自分の人生を創造していける人を育てる」ために5 教科以外に頭、心、体にバランスよく働きかけることが大切と言います。そのため、ヤギと触れ合ったり、川で遊んだり、ものづくりや料理なども取り入れてきました。

後半のブレイクアウトセッションでは、特に若い世代から今の教育への疑問がたくさん出されました。

「思春期の中学時代こそ一人ひとりの個性を認めて!!」「親の願いや理想と子どもの願いや気持ちにギャップがあるから辛くなる」など。公立学校だけでない学校を選択できる自由が必要で、選択の幅と自由が子どもの個性を生かすことにつながるのではな?また、長い期間学習しているにもかかわらず英語を話せるようになれない日本の教育のありかたに疑問を投げかけた高校生もいました。本当に身につく学びをどう作っていくのか?教育する側=大人の視点やあり方が問われています。

また、大人の立場からも「今の教育現場ではみんなと同じことをすべきとなりがちで、それがむずかしい子のために個別の対応をしたくてもできず歯がゆい」という声もあり、なかなか一筋縄ではいかないようです。

講師のお話やグループセッションの内容は、尾 形望さんによるグラフィックレコーディングで 記録(まんまるに掲示してあります)。

いずれも短い時間でしたが、内容の濃いものに なりました。



準備段階でテーマ選びから当日の流れ、講師との打ち合わせなど、すべてユースリーチのメンバーと考えてきました。大人は当たり前と思ってしまっていても



社のための学び舎

実は当たり前ではないこともたくさんあり、若い人たちからの素朴な疑問や意見を投げかけられて「ハッ」とすることも多々ありました。今後も老いも若きもみんなでSDGsを学ぶ機会を作って行きたいと思います。

「レッツ トライ!助成金」

日 時 9月5日(日)13:30~16:00

場 所 もんぜんぷら座 304 会議室&オンライン

参加者 16 人

もんぜんぷら座会場参加者9人

オンライン参加者7人

市民活動団体 (6)、NPO (4)

個人(4)、中間支援団体(2)

内 容 助成金の基本から申請書作成のポイ

ント、最新のトレンドまでをワーク

を交えながら学びます

講師 粟津知佳子さん(オンライン参加)

参加費 500 円

広 報 週刊長野

機関誌まんまる

HP/FB

長野市民新聞

チラシ



第1部 講義 13:30~15:00

- 1. 助成金の基本
 - ・助成金の説明から、助成金の種類まで
- 2. 助成金を出す側は、何を考えてどこを見るのか?
 - ・助成をする側には使命があり、目的がある。 それに合致しているかを見るのが審査やヒア リングです。目的を読み取り、合致させない と採択の可能性は低い。
- 3. 助成申請の際に気をつけるポイント
 - ・申請者の信頼度をアピールする観点。事業により期待できる成果と目指している効果
- 4. 助成金を申請する前にやっておくとよいこと
 - ・普段からの情報発信。関係データに基づいた事業設計。法人の財務状況の見直し。
- 5. 最近の助成金のトレンド



- ・「ロジックモデル」を申請段階で取り入れる助成財団が増加。
- ・「事業評価」を助成事業に取り入れる助成財団が増加。
- ・その他の価値判断として「社会的インパクト」「コレクティブインパクト」
- ・新しい動きとして「休眠預金の活用」「新型コロナウィルス感染症関連助成」

第2部 ワーク 15:00~16:00

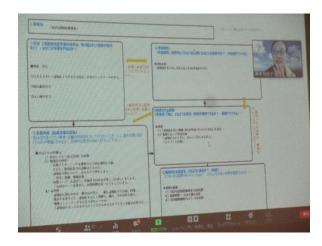
1. 参加者がそれぞれの事業について、下記の項目をワークシートに書き込む作業 ①事業名 ②背景 ③事業内容 ④期待される効果 ⑤期待される成果 ⑥最終的な事業目的





2. 作成した参加者の案件について、他の参加者が各項目を見て、分かりやすい内容か、理解できない点は、などを出しあった。

講師が、それを補足しながらアドバイスする。



質問

- ・資金調達で助成金とクラウドファンディング の特性の違いについて知りたい
 - ・・・いい質問ですね! (講師)



参加者の感想

- ・情報発信の大切さ、社会へのインパクト、多様な財源について見直す機会になった。
- ・ポイント、申請時の注意点などわかりやすかった。
- ・採択を決定する側との付き合い方や計画の組立て方の順序がよくわかり参考になった。

まとめ

- ・団体運営をしていく中で資金は大きな課題だと思います。単に、資金がほしいから、助成金ありきでは長続きしません。助成金を活用した後の姿を常に意識することが大切です。 そんな認識と申請に向けたステップを、助成する側からの視点で学べた講座でした。
- ・参加者の多くが近々またはいずれ助成金を活用したいと答えていました。
- ・昨年度、まんまるからは89件の助成金情報を発信しました。フェイスブック・ホームページでチェックしてみて下さい。センターの助成金ラックにもチラシを置いていますのでお立ち寄り下さい。
- ・コロナ感染レベル5を受けて急遽、会場とオンライン併用のハイブリッド形式での開催 になりましたが、オンラインからは茅野市、佐久市、原村からも参加いただきました。

以上

参加費 500円 広 報 週刊長野 機関誌まんまる HP/FB 長野市民新聞 チラシ



NPOステップアップ講座 コミュニティマネジメント

「猫でもわかるチームビルディング」

日 時:9月23日(日)13:00~16:00

場 所:もんぜんぷら座3階304教室&オンライン(zoom)

参加者:25人(内講師1人、リアル参加12人、オンライン参加12人)

講師: 呉 哲煥(NPO法人CRファクトリー代表理事)



目 的:仲間づくりの第 1 歩の踏み出し方から持続可能なコミュニティづくりについて、実際に組織を運営、またはこれから活動を予定している仲間と参加し、具体的なアクションプラン作成などのワークショップを交えながら、コミュニティを運営するための実践的内容を学びます。

参加費:1団体500円(学生のみの団体は無料)

広報:機関誌まんまる、HP/FB、長野市民新聞、チラシ、読売新聞、信濃毎日新聞

(前回までで一旦のコミュニティマネジメント講座が終了し、新たなスタートアップの内容として始まりました。)

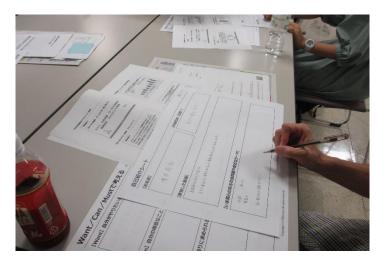
■「社会参加・コミュニティの価値」

市民活動・コミュニティの重要性について、他社との交流頻度の実績をもとに説明。サロンへの参加頻度や人との交流が希薄になるにつれて、要介護認定率や認知症となるリスクはあがり、早期死亡に至りやすいという分析結果がみられました。また驚くべきことに社会参加する男性のうつ発症リスクはそうでない人に比べて分の1まで減少。このことからもコミュニティやつながりを持つことがいかに重要であるかがうかがえます。それは決して大きな活動でなく



ても、一つ一つの点のような活動を続けることで点が連なり、俯瞰した時に全体的な形として作られていく ことが有効だということです。

参加者から「行政の打ち出す政策と市民から出てくる自発的な行動。それぞれが点だけど、それをつなぐ 役割が重要」という感想もあり、コミュニティ運営で担う役割を再認識されていました。



■「自分の中の種を探る」

そして次に自分の中にある種を探ること。ただし最初 はやりたいことがなくてもよく、求めに応じることで社 会参加が広がるという話がありました。

「スタッフのかかわり方もそれぞれなので、温度差があって当然。自分なりのかかわり方を持つような、メンバーシップの多様性も考えることで、リーダーは孤独を感じなくて済む」と悩み解決のためのアドバイスもされました。

■コミュニティマネジメントの基本原則

「だれかががんばる!」では、一方通行のサービスとなってしまう。お客さんは手ぶらで来るのではなく、運営を手伝うこと。 また運営もお客さんとなり楽しむことがコミュニティの基本となっていく。





また、課題のひとつに人をうまく巻き込めないということも挙げられます。その解決のためには活動や企画を自分ごととして捉えてもらうこと。手伝ってもらうではなく、企画の段階から一緒につくるスタンスで参加してもらう。それが結果として活動のしやすさにもつながるため、メンバー間の「相互理解の仕組みづくりを考えましょう」ということで締めくくられました。

参加者からは「相互理解を深めるためにどうしたらよいか」という質問があり、呉さんからは居心地がよくなるような工夫をするべきだと話がありました。普段から関係性を作れるようなことを続けるが大切で、 半ば強制ではあるけれども制度的に仕組みとしてメンバー同士が集まり話せるような時間を作りましょうと話されました。

■参加者からの感想

参加した学生からは

- ・大人と交わって話すことで貴重な経験ができた。
- これから社会に出るときにチームづくりの参考になった。
- コミュニティの原理原則を学ぶことができた

といった感想が寄せられました。また受講後参加者の熱心な質問に時間を大幅に超えても呉さんは丁寧に答え、参加したみなさんの熱量に感動した様子。理念作成や浸透といった上流プロセスから関わるための講義内容についても、改めて3時間コースでの講座を開きたいと話され、次につながる形で終わることもできました。





NPO カフェまんまる 担当 藤澤

「親子やきいも会 in 安茂里園沖」

日 時 10月30日(土) 10:00~12:00

場所園沖西遊園地(長野市小市)

参加者 園沖地区の住民 約100人

内 容 園沖地区の親子参加、やきいも交流会

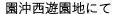
主催団体 園沖支え愛ネット(園ネット)

参加費 無料

協力 岡村二郎、池田尚史(安茂里地区有志)、

おっきいて(市内父親サークル)5人

長野工業高校(長光プロジェクト)の先生・生徒7人、



広 報 園沖地区回覧板(地区内17~18枚、120世帯)

目 的

ヤキイモを通して、地域の子育て中のお父さんたちに自分のまちで子育て仲間をつくってもらう。参加者との共同作業から人との交流の楽しさを感じてもらう。

- ・園沖のコミュニティに新しい世代が加わり次世代の担い手になる
- ・参加者をお客様とせずに、準備・後片付けまで一緒につくり地域の一体感を醸成する

経 緯

- ・中山間地では人口減少・高齢化など深刻な問題をかかえるが、市街地にも住民同士の関係性が希薄になり地区役員の引き受け手がいない、公民館活動への参加が低いなどの問題がある。
- ・当初、他地区で提案したが、コロナ禍で育成会などが難色を示したことから園沖地区に提案した。 園沖地区は安茂里地域のなかでも、園ネットを中心にまとまりのある地域だが、それでも子育て世代 のお父さんたちの地域活動への参加は乏しい。
- ・地域での「やきいも会」は埼玉地区の NPO が主体となりを展開しており、若い親子が参加しコミュニティが活性化されている事例がある。現在は埼玉県の後援事業となりサツマイモの提供などで支援し効果を上げている。

内容

スタッフ集合 9:00

親子による点火、あいさつ(松本園沖区長、吉澤園ネット会長) 用意したもの

- ・燃やすもの 木材、落ち葉、サツマイモ 60~70 本、
- ジャガイモなど。その他の焼くものは各自持参
- ・焼き釜2~3個(長光プロジェクトより提供)



準備の打合せをする園ネットメンバー

やきいも会開始

この間、子どもたちは、紙ひこうきづくり、落書きコーナー、シャボン玉、手作りブランコなどで遊ぶ



自分たちで薪を運んでくべる初体験



その間、やきいも準備の住民









子どもたちは思い思いに遊んで過ごす





工業高校手作りの焚き火台でマシュマロも!





ほくほくのやきいもを味わう参加者

まとめ

- ・想定を超える大勢の地元住民が参加した。特に子育て中のお父さんと子どもたちが多かった。
- ・参加者の声
 - 住民 「8年前に鬼無里から園沖に越してきた。子育て中だが、このような機会は久しぶりで子どもたちも喜んでいる様子。地区の行事にはなるべく参加していきたい」
 - おっきいての仁科代表 「素晴らしい企画に親子で楽しんだ。父親サークルとしても園沖地区とまた 共同イベントを開きたいと思い区長に申し入れた。|
 - 長野工業高校 「地元の高校として地元のイベントに協力参加できてよかった。他地区でも参加できる機会があれば手伝いたい|
 - 園沖区長 「今日は多くの参加を得て、とてもよいイベントになった。また、来年も実施したいと思った」
- ・多世代が参加する地域活動が中々ない。子育て世帯の親たちが参加することにより交流が生まれ、次世代の担い手になっていくには時間と工夫が必要。今回のやきいも会は準備、後片付けまで住民参加型の、とても有効な手段だと感じた。



長野工業高校の皆さんが木遣りを披露して 盛り上げました





最後は、みんなで後片付け、燃え残った薪を、穴を掘って埋めました。

SDGs まんまる「外国籍市民の実態と共生について考える」

日時:11月13日(土) 13:30~16:00

場所:もんぜんぷら座3階 304会議室

参加者:14人(定員20人)

県立大学生、外国人技能実習機構、県生協連、

NPO 関係者、市議会議員など

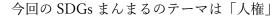
内容:私たちの生活の中では多文化共生といっても情報 も不足し、実態もわからないことが多いのが現状 です。これらを SDGs の基本原則でもある「誰ひ とり取り残さない」「国際社会のパートナーシッ プ」の観点から話題提供いただき、私たちができる

行動について考え意見交換をしました。

話題提供者:春原直美さん(長野県多文化共生相談センター)

参加費:無料

広報:チラシ、広報ながの、市民新聞、Facebook、ホームページ



今回は世代も性別も多様な参加者が集まり、全員の自己紹介から始めました。

前半は技能実習生をはじめとした長野県内の在留外国人について、県の現状など数値データをもとに長野県多 文化共生相談センター春原直美さんにお話をしていただきました。

春原さんは外国人が抱えるさまざまな問題を紹介し、情報弱者になりがちなのは第一に言葉の問題で、給付金など自分で内容を咀嚼できないことが多いそうです。また相談を受けても関係機関を紹介するしかないので、ワンストップを目指す相談センターとしても歯がゆさがあると話していました。言葉以外にもいくつかの壁があり、中でも「日本人は、顔は笑って心は凍っている」という当事者の言葉から「心の壁」が障壁となり、近づきがたくなっていると指摘。参加していた日系四世の県立大学生も納得の様子でした。

後半は春原さんの話を受けグループワークをしました。

●内容についての感想共有(付箋:青)

- ・長野県多文化共生相談センターの存在を知らなかった
- ・長野市として取り組むべき課題が多い
- ・全国で長野だけの取り組みにエール
- ・市町村によって体制にバラツキがあると感じた。問題では?
- ・外国籍の在留資格(形態)が多いことにびっくり
- ・制度の壁は難しいが、心は変われる
- ・日本で暮らしていることに慣れて、心の壁が当たり前だと思った
- ・本当に情報を届けたい人にどうやったら届けられるのか悩ましい
- ・共生社会といわれるが、地元意識が高いと入っていくのは難しいと感じた
- ・いろんな言語に対応し相談にのっていて素晴らしい
- ・問題はあるが恵まれている方。センターの周知は必要で定住者の生の声を聞きたい
- ・思った以上に対応ができていない。リソースに限りある分野だが窓口はあった方がよい





●周りや地域内での困りごとや対応した事例(付箋:赤)

<困りごと>

- ・福祉サービスの案内が少ないと感じた
- ・相談できる人が少ない
- ・そもそも外国人がそばにいない、知らない、会わない、接点がない
- ・災害時の情報発信(ボランティアや被災者ニーズ)
- ・災害時に外国の人の姿が一気に見えず、しかし実際には暮らしていて困っている
- ・年金納付と永住権の問題
- ・文化の違い。留学生がバイト先で悪気がなくやったことを責められて悲しい
- ・日本語の自習学習ツールが欲しい

<対応したこと>

- ・ボランティアしたいと言っていた方に案内した
- ・電車の乗換案内をした
- ・学校指定の学用品をそろえるお手伝い

●外国籍県民市民対して「こうだったらいいのになぁ」と思うこと(付箋:黄)

- ・情報を広く伝えるのが大切
- ・外国籍県民の方たちのくらし状況や困りごとを知る場所(情報発信とか)
- ・相談窓口を多くの外国籍県民に広めればいい
- ・一番の頼りになるのは大人かもしれないが、心の寄り添いや友達になることは学生もできる。交流の場!
- ・地域の中でもっと交流ができる、外国籍県民とのサロンやおしゃべりの場が日常的にあるとよい
- ・周りの人が気軽に話しかける
- ・飲食店等のコミュニティがあれば参加したい
- ・外国人が楽しめるイベントがあればよい
- ・コロニーでまとまらなくても開放感がある地域があればよい
- ・緊急時に平等にケアができる仕組み
- ・税金を払っているが選挙権はない。せめて地方参政権を与えられるようになってほしい。
- ・日本語の習得は教室だけでは足りないのでは
- ・役所のどこの窓口でも気軽に訪れられるようなバリアフリーに
- ・サインや案内看板の充実
- ・在住しててもホストファミリー制度
- ・同世代の日本人と気軽に関われる機械やイベントの実施。実践的で楽しく学習できる場所

短い時間でしたがたくさんの意見交換がされました。

最後に春原さんから外国人と接する際にみなさんにすぐできることとして

「完璧な英語ではなく、『やさしい日本語』ではなすこと」をこころがけてほしいとよびかけがありました。





「七二会 竹取物語」

日 時 11月20日(土) 13:30~15:30

場 所 七二会コミュニティセンター(七二会公民館)

参加者 市街地に住む親子4組15人(大人7,子ども8)

内 容 七二会地区の紹介、「竹」をテーマに竹クラフトづくり

主催団体 七二会いいとこ発見委員会

参加費 500円/家族

協力 ケクラフト講師:丸山政義さん、

紙芝居作成:長野美術専門学校学生6人

広 報 チラシ、FB、HP



<u>目的</u> まちむら交流会は、自然を生かし、自然とともにある中山間地の暮らし。土地の人たちとの 交流を通して、中山間地ならではの豊かな暮らしのありかたを、市街地に暮らす人たちに知っても らい、継続的にかかわり続けてもらいたい。単なる観光ではなく、肌で感じ、体を使って体験する ことを主眼におき、移住定住に限らず、関係人口となってもらうきっかけづくりとして毎年開催し ています。

今年度は七二会をステージに、七二会いいとこ発見委員会との協働により子どもがいる若い親子を対象に、地域に群生する「竹」をテーマに設定。住民にとって竹は、道路にかかり交通の障害に、農地に侵食、イノシシやシカがタケノコ目当てに侵入するなど"支障竹"とも言われる存在ですが、その竹を取り上げて2回シリーズで竹を通じて七二会に触れてもらうイベントとしました。

経緯

- ・昨年度に予定したイベントでしたが、コロナ感染症流行のため1年間延期しました。
- ・今年度は、6/13(日)に第1回目「タケノコ狩りと竹の伐採」を計画し、5家族 20 人の参加予定でしたが当日の荒天により中止となりました。七二会メンバーの好意により朝取りのタケノコを予定者に配布しました。
- ・第2回目は 9/4(土) に計画しましたが、コロナ医療非常事態宣言を受けて 11/20 に延期開催となりました。
- ・地域まるごとキャンパスで「七二会紹介紙芝居の作成」プログラムを募集したところ、長野美術専門学校の学生から応募があり、2回目での上演を目指して制作に取り組みました。そのための取材を兼ねて 7/4(日)に七二会を訪問し委員会の方から、七二会の説明や見どころを案内いただきました。(春日神社、大平風穴、フジバカマ園、守田神社など)

・8/28(土)完成した紙芝居を学生3人が市民協働サポートセンターでリハーサル上演しました。

11/20 のイベント内容

スタッフ集合 12:50

- 1. 始めの会 参加者自己紹介 市街地に住む親子4家族 (3歳から9歳までの子どもたち8人が参加)
- 2. 七二会紹介の紙芝居(まんまるスタッフ) 七二会のお宝の説明(七二会いいとこ発見委員会) 福寿草、ソルガム、フジバカマ、竹、蚕など
- 竹クラフトづくり(丸山講師)
 水鉄砲を親子でつくって、飛ばそう。
 カタツムリづくり



のこぎりで竹を切る参加者親子と丸山さん



紙芝居で七二会を紹介



標的に向かって水鉄砲の試射

- 4. 終わりの会 参加者からの感想
 - ・七二会へ来たのは初めてでしたが、こんなに近いところに自然がありいいところでした。
 - ・この時期に水鉄砲をつくり、遊べるとは!親子で初めての体験で楽しみました。
 - ・県外から引っ越してきて、春にタケノコをもらい、タケノコ汁にサバ缶を入れて初めて食べたが美味しかった。
 - ・七二会へはまた、花を見に来たいと思います。

まとめ

- ・参加した4家族は七二会への訪問は初めてで、"なにあい"の読み方も知らなかったとのこと。
- ・晴天に恵まれ屋外でのクラフトづくり、鉄砲飛ばしに親子ともに喜んでもらい、終了時間以降も子ど

もたちは畑で遊ぶなど、飽きない様子でした。

- ・学生が制作した紙芝居は七二会の"いいとこ"を描いた力作で、参加者も委員会の皆さんにも好評でした。当日、学生たちは都合で参加できませんでしたが、好意で紙芝居は委員会へ贈呈されました。
- ・学生たちは忙しい中、作成に取り組み「紙芝居の制作は初めてでみんなでアイデアを出して楽しく作ることができた。子どもたちの前で上演するのが楽しみ」との感想でした。
- ・七二会のメンバーからは、「こんなに多くの子どもたちに来てもらいうれしかった。これを機に七二 会を知ってもらい、また訪れてほしい」との声が聞かれました。
- ・コロナ禍の影響で、再三にわたりスケジュールが変更になるり1回のみの実施になりましたが、参加者は七二会を始めて訪問し、自然の素材「竹」から水鉄砲をつくる体験に満足の様子でした。 季節ごとに見どころの紹介もあったので、今後の訪問のきっかけになることと思います。



取材で話を聞く長野美専の学生6人



紙芝居の制作風景



完成リハーサルの学生 たから 牧さん、横井さん、海老名さん



七二会いいとこ発見委員会の皆さん 松林さん、吉原さん、スミス陽子さん、水口さん、青木さん

寄付からはじまる新たな可能性を探そう~NPO×お寺×企業…?~

日 時:2021年11月26日(金)17:30~19:30

場 所:もんぜんぷら座 304 会議室

参加者:26人

(NPO 関係者 8 学校関係・学生 4 企業 5 お寺 4 地縁団体 1 他 4)

内容:さまざまな形で寄付を集めたり、寄付をしている人が集まり、それぞれの

事例やその裏の想いを共有する。

(1) 寄付を集めた人の STORY をきこう

◆キセキのみそ復活プロジェクト 河野ます美さん

活動内容

2019年東日本台風で、長沼地区にある創業 135年の小川醸造場のみそ蔵が全壊。

「地域で愛されてきたみそ蔵を復活させることで、同地域に希望の光を灯したい」

という想いをもつ NPO や個人が立ち上がり、クラウドファンディング(※)で寄付を集める。

71人から約180万円の支援があり、大豆を選別する機械を購入する資金にあてた。

※クラウドファンディングとは、インターネットを通して資金を募るしくみ。

クラウドファンディングを通じて

クラウドファンディングは、ただお金を集める手段ではなく、より多くの人に想いを伝えるために使った。 ストーリーの共有(災害を忘れない・長野の財産を守る)により、共感の輪が広がったのではないかと思う。

◆災害ボランティア委員会 阿部今日子さん

活動内容

東日本大震災を機に発足。普段は防災教育などをし、

台風19号の際には長沼・豊野などで支援活動を行う。

寄付を集める方法

スマートサプライ:必要なものを必要な人へ。アマゾンのほしいものリストを活用したシステム。支援状況 がリアルタイムで見られることが利点。

寄付付き商品:アルクマの復興コーヒーを販売し、80万円の寄付金となる。1個150円と手に取りやすい価格で多くの人に受け入れられたのではないか。

◆NPO 法人えんまる 岩間淳さん

活動内容

訪問型病児保育事業の他、希望する児童扶養手当受給家庭へ

食料や学用品を無料で支援する子ども宅食。

最初は不審感をもたれていたが、何度も訪問するうち信頼関係ができ、

今では喜んでドアを開けてくれるまでに。

寄付者への感謝・報告の大切さ

寄付された物をプレゼントとして包み、丁寧に渡すことを心掛ける。





寄付者にはどんな風に渡し、どんなに喜んでくれたかという報告や感謝の気持ちを丁寧に伝えるている。

寄付の連鎖

第一生命と JT 社員が作った紙バックを大活用している。

<u>みんなで応援プログラム</u>(アマゾン)→アマゾンの欲しいものリストを活用して、全国に支援を呼びかけ、先日、埼玉から支援物資が届いた。

◆長野県社会福祉協議会

寄付募集の方法

コロナ禍で大変な状況にある医療と介護の現場で使う防護服をつくる企画で、 YouTube を活用。

長野工業高校は、農業用マルチシートで200枚近く作り寄付。

YouTube にはさまざまなコンテンツを普段から挙げており、

いろんな方面でヒットしアクセスしたのではないか。

(2) 寄付をした人の STORY をきこう

◆十念寺 袖山栄輝さん

寄付内容

地域まるごとキャンパスへの協賛。青年の育成活動。

寄付をした理由

社会貢献の主旨に賛同。

団体は決済に時間がかかるが、お寺の住職はワンオペ。決断が早いのがメリット。 もともと、地域のためにという意識強い。

イベントを開くことも多いが、資金が非常に厳しいのが現実。

お寺同士のつながりは強いが、地域とのつながりもとても大切だと考えている。

◆蓮香寺 樋口良宏さん

寄付内容

事業を応援したいと地域まるごとキャンパスへの協賛。(十念寺からの紹介)

寄付をした理由

4/8、8/8に毎年イベントがあり、学生の力があるとありがたいと考えている。いろんな人とのつながりが大切。

お寺をもっと知ってほしい。

◆西光寺 竹澤泰宏さん

寄付内容

事業を応援したいと地域まるごとキャンパスへの協賛。(十念寺からの紹介)

寄付をした理由

お寺に関わる人たちも高齢化している。

かるかや縁日を再開したいと考えており、若い人たちと一緒にやることで









新しいアイディアや活発になることも期待している。

圓成寺 小菅宗真さん 兼業で桃農家を営む。 地域で何かできないかと模索している



◆第一生命 難波哲人さん

寄付の内容

コロナ禍で営業活動ができなくなった 350 人の社員の地域貢献として ボランティア活動を提案した。

新聞紙バックの講習会を経て作成、寄付。

→子ども食堂やえんまるへ。使ってもらえてうれしい。

これから

今後もできることをやっていきたいし、こういった長野の動きを 全国に広めていきたい。



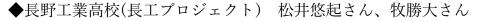
寄付の内容

紙バックを作成して寄付。

他にもまんまるや企業との橋渡しに。

想い

「人のときを、想う」=地域に寄り添い感謝されることを目指している。 地域に何かしたいけど何をすればいいのかわからないと感じている企業人も 多くいる。第一生命の紙バックづくりでまんまるに出会い、さまざまな縁が つながっている。つながりを大切にしたい。



寄付の内容

同校機械工学科有志の団体で、6年前から始まった。

手作り燻製機の売り上げを台風19号被災地支援に寄付。

他にも壊れた車イスを再生させたり、県警と協働し反射板を作る プロジェクトでは、今までに6千個販売。経費を抜いた売り上げは 全てNPO法人犯罪被害者支援センターへ寄付した。

寄付を通じて感じていること

地域のために一歩を踏みだすことができている。

自分のつくったものが人の役にたつのは嬉しいし励みになる。







(3)グループワーク

後半はグループに分かれ、3つテーマについて話しました。 『なぜ寄付が根付かない!?』

(意見一覧)

- ・使い道がわかりにくい。(身近に感じられない)
- ・個人名が出ることへの抵抗感。
- ・寄付に対する認知度が低い
- ・寄付に関する教育を受けていない。
- ・文化の違い
- ・本当に根付いていない?
 - →形はちがえど昔からあったお互い様の気持ち。
- ・情報が少ない
- ・自分との関わりがわかりにくい
- ・お金の話はしにくい
- ・寄付のイメージ(お金のみ・お金持ちがする・優位性)が払しょくできていない
- ・顔が見える関係が大切
- ・しくみがむずかしい(ネット決済・振込)お金の取り扱いが億劫
- ・税制で控除になるケースが限られる。
- ・仏教でのお布施の意味などがほとんど忘れられている。
- ·他人事=自己責任論

『こうすればもっと寄付は広がる!』

- ・参加しやすい寄付の方法があってもそれを知ってもらえることが大事。
 - →寄付が素晴らしいことだと実体験、若い世代への寄付の教育(SDGs 含めて)。
- ・ネット・web に抵抗感がない世代は寄付するのではないか
- ・しくみが楽だとやりやすい(レジ横・街頭募金)
- ・お金以外のもので作業(ボランティア)や物などもあり!
- ・「寄付はステータス」を広げよう!
- ・使いみちがはっきりしているといい
- ・共感できるかがポイント=対等な立場であることが大切







(4)今回すぐに実現した協働事例

- ・みどりの市民×岡学園→この冬のイベントチラシ作成
- ・第三地区住民自治協議会→えんまる・HUG の情報を民生児童委員に共有
- ・第三地区住民自治協議会×第一生命→来年度のおまつりで使う紙バック作成
- ・蓮香寺→えんまる→お菓子などの提供
- ・NPO 法人食育体験教室コラボ×水島紙店→企画考案中

(5)まとめ

今回の企画を通じ、寄付にはさまざまな形があることや、寄付を集める方法を自分たちの目的に合わせて 選ぶ大切さを参加者のみなさんが感じたようです。

グループワークはお寺や企業や NPO など他業種との交流に、会話が弾んでいました。「お寺のご住職さんと膝をつき合わせて話すことはないので新鮮だった」「知らない NPO 活動を知る機会になった」「視野が広がる」「新たな出会いがあり、活動につながりそうです」といった感想がありました。

今回のような企画の継続開催してほしいという声も多く、参加者のみなさんがいろんな人たちと出会う 機会を望んでいることがわかりました。また、出会ったことで次の活動が生まれ、地域活動の活発化につな がっていく可能性を感じました。 ユースリーチスキルアップ講座×NPOステップアップ講座 コラボ企画

「ファシリテーション講座」

ワクワクする話し合い<mark>の場をつくろう!</mark>

日 時:11月28日(日)10:30~16:00

場 所: もんぜんぷら座 304 会議室

参加者:高校生・市民活動団体等 21人



(リアル 15 人 オンライン 6 人)

講 師:鈴木まり子さん

(日本ファシリテーター協会フェロー)

市民活動・地域活動に話し合いの場はつきもの。その話し合いの場を円滑に進めるために必要なのがファシリテーションの技術。さまざまな手法を駆使して、どうその場を組み立て、どう進めたら良いのか? さまざまな話し合いの場で、すぐにでも使えるノウハウがてんこ盛りの一日でした。



ハイブリッドでの運営ということもあり、まんまるはスタッフ総出で運営にあたりました!!

この日、鈴木さんが設定したゴールは「ファシリテーションの基本を学び、さっそく自分の現場 や活動で実践してみようと思う」でした。

午前中は主にファシリテーションの基本知識として、「話し合いのゴールの設定」や会場の使い 方やいすや机の配置など「場のデザイン」、時間の流れの作り方など主に事前の準備について。

また、参加者が能動的に話し合いの場に関われるようにするためには、どうすればよいか。参加者が他人ごとではなく、自分ごととして会議を捉えられるかはファシリテーターのあり方が問われます。

ゴールは「何のためにやるのか?」と終了時の参加者の状態を明確にします。話しやすい雰囲気は、アイスブレイクなど心を開放するプログラムだけでなく、椅子や机の配置一つで場の雰囲気は変わります。時間管理はとても重要で、鈴木さんは「その日の話し合いのゴールを定めてそれに向かって流れをつくることが大切」と言います。スケジュールを円形に落とし込んで「起承転結」をわかりやすくする「マンダラ」も提供されました。





オンラインも同時進行で

さらに踏み込んで、議論が霧散しないように会議の内容の可視化の方法や、時間管理の 大切さについても学びました。あらかじめ終 了時間を知らせたり、話が長くなる人には介 入する方法など、具体的な方法も。また、困った参加者については「困った参加者というのはあくまでファシリテーターの主観によるもの、こちらの心がまえ一つで場の雰囲気や流れは変わるのです」と鈴木さん。 午後は、会議を運営するにために必要なスキルを 具体的に体験しつつ学びました。

話し合いの場で良くある「決まった人だけが話し続けて、一言も発言できない人がいる」や「話し合いが脱線してしまう」などの悩みにどう備えるか?についても、グループ人数の構成、質問のしかたで話し合いの活性化ができると鈴木さん。また、発言した人の気持ちに寄り添う「傾聴」や「質問」は、ファシリテーターに限らず参加している一人としても意識したいことです。



聴覚障害の方も受講。身振り手振りで話をするグループ

最後に、鈴木さんからは「ファシリテーターとしてだけでなく、一参加者としてもより良い話し 合いの場を運営する視点をもちましょう」「成功か失敗かはすぐにわからない。失敗しても落ち込

De la constant de la

まないように。どんどん場数を踏みましょう」とアドバイスがありました。

参加者からは、「ゴール設定の大切さがわかった」「準備が大切と感じた」「ぜひ現場でやってみたい」との声が聞かれました。みなさんが、良い参加者となり、話し合いの場が活性化されますように!!

2人、3人で話せば、みんなが必ず発言できます。

講師鈴木まり子さんの著書紹介→



本講座は、地球環境基金の助成により開催しました。



「野良猫による環境被害対策」

日時:12月5日(日) 13:30~16:00

場所:リアル会場(もんぜんぷら座3階 304会議室)

オンライン (zoom) 併用

参加者:講師登壇者含め34人 (リアル28人 オンライン6人)

動物愛護会、動物福祉協会、県保健所、地域ボランティア

NPO 関係者、町議会市議会議員など

内容: 地域猫活動を行う上で大切なことは、地域住民が主体となり、人と猫が共生する地域をつくること。地域 福祉と地域猫問題は密接に関係し、孤立させない人のつながりが重要。野良猫対策、市内や近郊の現状と 取り組み事例を共有、課題解決に向けた地域の担い手を創出についての意見交換。

講師:長野市保健所 動物愛護センター 主査 宮下雅行さん

協力団体:しんけん動物病院 松木信賢さん(長野市)

NPO 法人一匹でも犬・ねこを救う会 松井ルミさん(上田市)

千曲ねこの会 平田里美さん (千曲市)

長野県動物愛護会長野市支部 堀篭栄子さん(長野市)

第1部 長野市保健所出前講座「野良猫対策~地域猫活動へのアプローチ」

講師市保健所宮下雅行さんから長野市の野良猫の状況をはじめ、法律や不妊去勢手術の現状についての話。 年々増えている外にいる猫に関する苦情。保健所を含む行政は、健常な猫を捕獲保護できない状況を踏まえ、 飼い主と給餌者それぞれにとって必要なことは何か。それは餌やりが悪いのではなく、不妊去勢手術をおこなわ ないことが問題であると宮下さん。野良猫の環境被害対策をする上で、関係する人間がマナーを守ることが基本 だと言います。そのうえで、地域猫活動をおこないながらこれ以上頭数を増やさないように、地域の理解のもと 管理していかなければなりません。

地域猫活動は、猫好きにとっても苦手な人にとっても、不幸な猫のいのちを減少させ地域の環境美化にもつながることです。トラブルゼロで、住みよいまちづくりを目指して「One for all, All for one!」の精神で地域の問題として取り組むべきことなのだそうです。

地域の人たちを巻き込みながら活動の周知と管理の徹底をおこなうことが、やがては猫の愛護につながっていき、人も猫も地域も幸せになると話しました。







第2部 協力団体ゲスト間クロストーク

NPO 法人一匹でも犬・ねこを救う会

上田市には地域猫活動を支える登録ボランティア制度があり、平成30年から活動をはじめ今では1000匹を超える地域猫が管理されている。上田保健所管轄内の市町村では連携がとれ、上田市では不妊手術費用が予算内で全額補助が出る。しかしそれでは足りないため、カンパを募りながら自費でやることでまかなっている。

今後は「他機関連携のつながりで、動物愛護の観点から 社会福祉との関連性を強めていき、当事者が抱える問題を 洗い出しながら生活の向上とサポートをしていく必要が ある」と話す。





千曲ねこの会

発足は2018年。現在会員数は15名で、ほぼ当事者で野良猫の不妊化手術を通じて生活環境改善を図っている。「昔ながらの飼い方をしている地域も多く、地域住民の意識が問題となっている。まずは環境被害対策から入り、地域社会の理解を求めていくことで、管理が進むにつれて猫に対しての愛着が増していく」とのこと。その結果全体で地域猫対策を通じて、人とのつながりをつくり、それがセーフティネットになって地域福祉にもなると活動している。

長野県動物愛護会長野市支部

状況にあわせて行政と連携をしています。野良猫の多い 西鶴賀の事例を紹介。他の市内にも野良猫の多い地域は多 数あり、TNR(トラップ→手術→元の場所へ戻す)をすれ ばいいというわけではない。TNR は目的でなく手段。人と 猫との共存が目的で、当該地域がそれを知らないと意味が ない。知ってもらうことは大変で時間がかかるがおろそか にできない。行政やボランティアに力を借りて理解を得ら れるように伝えていく。

また災害時のペットへの対応も一般の人へ伝えることが



大切。マニュアル整備や、対応方法について行政ボラン ティアで決めておく必要がある。



しんけん動物病院

直近一年間の手術頭数が 2000 頭を超えました。それ だけ需要があるのだと実感している。

今後はボランティアと行政の関わり、行政と地域との 関わり、団体同士の横のつながりがどうなのか。地域の 状況がどうなってきているのか?そのあたりをしっか りと考える必要があると考えている。

また獣医師という立場はどうなのか?この地域・行政・団体の関わりの中での活動には、獣医師の協力が必要でまだまだ足りないと感じる。発情前に実施する避妊手術は不可欠で、啓発活動をおこなうことが必要。私はその活動にも力を入れていこうと考えてる。



第3部 参加者同士での交流会

第3部は参加者が5つのグループとオンラインに分かれて、今回参加した理由や講座やトークの感想、現在の地域での困りごとと今までの対策などを共有し話し合いました。

今回の参加した理由には、「他地域でのノウハウを知りたかった」「ほかのエリアのボランティアの方と会いたかった」という交流目的のものも多く、参加者は長野市に限らず長野県内各地から北は山ノ内町、南は木曽から参加があり(オンラインでは東京からの参加もあり)、地域を超えた交流でさまざまな意見交換や情報共有がされました。

感想として「話を聞いて勇気が出た」「環境問題から入ることで、たくさんの人を巻き込める」「地域のため に活動したくなった」など、話を聞いたことで活動へ活力となっていました。

困りごとも自分一人や地域内で抱え込むのではなく、今回のようにおなじ志を持って取り組んでいる人たちの意見を聞くこと。それを持ち帰り地域の中でも問題共有をしながら、感心ある人を増やしつながりをつくっていくことが重要だと実感した交流会となり、グループ内の話が盛り上がり、「とにかく時間が足りないもっと話したかった」という声も出ていました。

まとめの中で松木先生は「今回のいちばんの目的は横のつながりを持つことです。困っているときには気軽に話ができる関係性をつくること。今日は種まきの日です。これが地域に散らばって育って、課題解決の礎になって行くと信じています」と締めくくりました。

地域猫活動を定着させるには数年かかると言われます。今後それぞれの地域に活動の輪が広がっていくことが 期待できる第一歩となりました。



世界でたったひとつの



夢金箱をつくろう



12月12日(日)、オリジナルの募金箱をつくるワークショップを、ながの協働ねっとと市民協働サポートセンターが開催し、幼稚園児から大人まで19人が参加。地域まるごとキャンパスに参加した高校・大学生も来てにぎやかな場になりました。

前半は募金とはなにかを知り身近に感じてもらうため、 紙芝居や、過去に協働から寄付金をもらい事業を実施した 団体から話を聞きました。

フリーペーパー作成のため寄付金をもらったパパサークル『おっきいて』 代表の仁科賢人さんは、「寄付金があると、その分内容を充実させるために力を 注げるのでとてもありがたい」と、寄付金の利点や活用法について話しました。 その後山本里江さんから、寄付金を活用し、障がいのある子どもたちの食事への 理解を広める活動を実現したと話がありました。

また、身近な「赤い羽根共同募金」が災害支援や地域の活動に使われていることも、ながの共同募金会の塩澤宏之さんから話してもらうと、「全然知らなかった」と参加者。

後半、いよいよ募金箱づくり。今回のワークショップには、厚紙や画材など、手提屋(水島紙店)さんにたくさんのご協力をいただきました。

「回る周るハウス用に」「なん<mark>でもいいから使ってもらえ</mark>るように」「どこで活用してくれますか?」などと相談しな<mark>がら夢中で作りました</mark>。。

参加した保護者は「子どもに<mark>とって、自分のつくったものが</mark>役に立ってくれたと いう体験になってくれたら」と話しました。

たくさんの花びらをつけたものや手書<mark>きのキャラクターを</mark>施したデザインなど、 色とりどりの個性にあふれた募金箱が出<mark>来上がりました。</mark>

展示の後は各団体に贈呈予定になっています。





HP 市民協働

☆ながの協働ねっとは、寄付月間アンバサダーです☆

主催:ながの協働ねっと・市民協働サポートセンター

協力:手提屋(水島紙店)

問合せ:市民協働サポートセンター 026-223-0051、npo@nagano-shimin.net、



地域まんまる 2022 地域の草刈りどうしてる?

~たかが草刈り、されど草刈り、草刈りなめんな!奥が深いぞっ!!~

日 時: 2022年3月14日(月)

場 所:中条交流センター

参加人数:47人(住民自治協議会、企業、福祉施設、行政職員、地域おこし協力隊、個人他)

内 容:地域の課題の一つ、「草刈り」についての意見交換会。現状を改めて確認し、それぞ

れの地域での取り組みを共有、新たな解決策を探る。

■アイスブレイクを兼ねてのワークショップ 「そもそもなぜ草刈りをするのか?」

<出された意見>

- 安全のため
- ・畑の作物を守るため(有害鳥獣の問題?害虫 の発生)
- ・景観が悪くなる
- ・環境保全のため
- ・ゴミの不法投棄につながる
- 防災のため
- ・そこに住んでいるという証

※必要があってやっているという認識が圧倒的多数



広い会場にできるだけ離れて着席。感染防止対策をしての開催

■情報提供

- ●「市道の草刈りについての現状」 長野市建設部道路維持課(出席なし。紙ベースでの提供)
- ●「草刈の現状と歴史的考察」 芋井地区住民自治協議会地域活性化推進員 羽田一郎さん
- ●「住民主体のしくみ構築と現状について」 長沼ワークライフ・組合 西澤清文さん



台風災害で被災した長沼地区の地図を見ながら説明する西澤さん



芋井地区の現状について話す羽田さん

「芋井地区の現状と歴史的考察」

現在は早朝に住民が参加して道路の草刈りを行っているが、県道が 26Km、市道が 59Km それ ぞれを年に 5~6 回やることになる。トータルで 2566Km、延べ 1968 人が参加している。しか し、地域は高齢化で人口も減少し、担い手不足が予想される。10 年後、住民の半分ができなくな

ると思われると話した。

昔は「草」は重要な肥料であり、ススキはかやぶき屋根の材料として大事な資源だった。道路 わきの草も所有者のもので、勝手に刈るともめ事になったという。しかし、時代がかわってこれ らが資源ではなくなってしまった。

また、昔は道普請といって道路の整備は共同で実施していた。そうでないと暮らせなかった。 その場が地域の交流の場でもあった。しかし、車社会の台頭で必要とされなくなった。

これからは、人口減少による空き家問題なども移住や関係人口と結びつけ、草にも新たな価値 を見出すことが必要と羽田さん。草刈りバスターズのような組織化で地域の現状を打破できない か考えていると発表した。

「住民主体のしくみ構築と現状について」

長沼地区は、2019 年の台風 19 号で千曲川の堤防が決壊、地区全体が水害に遭った。実は、その前から地域では草刈りについての問題は語られていた。被災したことによってクローズアップされた。被災して遠方に避難したり、公費解体で土地が更地になったりしてますます問題が深刻化していたが、地区の会議で、地域の農家から長沼の耕作放棄地が増えることを食い止めたいと発信があり、県社会福祉協議会からも農福連携を進めているが将来的には住民が主体となってやっていくことが必要と言われた。

そして、草刈りは永遠に続くもので、将来的に継続できる仕組みが必要、農業公社などとの連携でこれを仕事にできないか?と議論が始まり、何度も議論し 2021 年 4 月に発足した。

①草刈りの申込 ②草刈りの依頼 事務局 協力者 依頼者 (おねがい会員) (長沼ワーク・ライフ組合) (おたすけ会員) 4)活動報告書・ ③活動報告 申込の受付 請求書提出 地区内居住者 作業日程の調整 〔長沼地区住民〕 5)費用支払し 作業員の調整 活動報告書作成 等 耕作放棄地の地権者 会報等郵送 寄付等 地区外居住者 支援者(おうえん会員) ゙゙ボランティア 公費解体跡地の地権者

ワークライフ組合のしくみは?

対象は、行政や住民自治協議会、個人などの手が行き届かない部分に限定。耕作放棄地から遊休農地へ転換し、農地の貸し手と借り手をコーディネートできるようにした。お願い会員が43人、おたすけ会員23人、おうえん会員(寄付のみ)18人となり、リピート率も63%。住民からは感謝の声もあって手ごたえは感じている。

一方課題もある。単価の設定が安く苦しい状況。今後も財政を安定させることができるか?を 考えなければならない。住民自身が議論を重ね、自分たちの地域は自分たちで 守って行こうと奮闘する様子が使わる発表だった。



Madelle

■意見交換

テーマ①「今草刈りができていない、辛いのはなぜか?その原因は何?」

・・・人員、人材、技術、お金の問題なのか?

冒頭のアイスブレイクでの答えから、やはり地域で必要だから草刈しているということがわかっている。では、必要なのにできていない現状は何に起因しているのか?今後できなくなるのでは?という不安感、負担感はどこからきているのか?を考えた。





- · 人がいない(高齢化、人口減少)→若手が山を街場に出てしまって技術が伝承されていない
- ・ 危険が伴う作業なので誰でも・・というわけにもいかない
- · 担い手を固定的に考えている→女性でもできるのに!!という声もあがった
- ・ 住民が地域に対しして無関心→やらされ感、なぜ困るのかがわかっていない、誰かがやって くまれると思っている=自分ごとになっていない
- 助け合う気持ちが生まれるようなコミュニケーションが不足
- 費用がかかる
- ・ 刈った草の使い道がない→ヤギやうさぎを飼う?
- ・・・テーマ①の段階ですでにアイデアが飛び出したグループも? それを受けて

テーマ②「新たなアイデア出し」

・・・ICT の活用、関係人口との併せ技、イベント化、企業との協働、地域の施設との 連携などを出し合った





- →農業体験× 草刈り、アグリカルチャートレーニングと称してスポーツにするなど
- ・ 草刈りのビジネスモデルの構築・・・草刈りで金を稼ぐ!!
 - →「アクティビティにする」草刈り×ダイエット&健康増進としてイベント化。企業と組んでイベントに"草刈り中""草刈りラリー"。草刈りスクール、草刈りガールなどおしゃれに、重機女子の次はビーバー女子!! 草刈り×宝さがしも
 - →「刈った草を商品に」枕にする、ハイジのベッドにして売り出す。遊具にならないか?コンクリートに混ぜて使えないか?
- ・ 関係人口など人を呼び込むツールに
 - →○○体験、安全講習会+お土産付き
- · 人材育成ために学生対象の草刈リバイトを募集し、将来の担い手に
- ・ 企業との協働。SDGs に絡めると企業の取り組みとマッチングできるかも?
- ・ 行政との協働も必要。資金面での応援をしてもらう
- · 草刈りの機械化 DX 化
- ・ 景観税を作って草刈りしていない土地の持ち主からお金をとる



当初 2 月 10 日ふれあい福祉センターでの開催予定だったが、延期や場所の変更があった中でも 47 人が参加し、非常に関心の高い話題だったことがわかる。

参加者は積極的に意見交換に参加。それぞれの地区での現状や取り組んでいることも共有した。 今回の参加者は圧倒的に男性が多かったが、女性から「女は草刈は無理だ」と言われたが、そん なことはないはずという意見も飛び出し、これまで担い手として考えて来なかった人たちの存在 に気付いた人も多かったのではないか。慣習にとらわれない視点が必要と感じた。また、企業か らは地域にお金が回るようなアイデアを、何でも無償でやるという発想は良くないという意見も 聞かれた。

たかが草刈り、されど草刈り、目に見えるのは「草刈りが大変」という事柄ではあるが、実は そこには、高齢化や過疎化、農業や林業の衰退などさまざまな課題が絡み合っていることが今回 分かった。交流会の中で紹介した長野市農業委員会の青木保さんの言葉を借りれば「今こそ考え 方を変える時」であり、一つの事柄だけを考えてもうまくいかないとすれば、他の課題やさまざ まな地域内外の資源を結んで解決の糸口を見つけていくことが必要と改めて確認した。

最後のまとめでは、西澤さんから「今回で終わらせず、次回に続けよう。今日出たアイデアの 実現に向けてどんなふうに動いたかを共有しよう」と発信があり、次回を検討することとなった。